



NEC三栄株式会社

ワイヤレスセンシングビューア MT12-701 取扱説明書正誤表

PHSアクセスユニット(PAU-502RS)定格変更されております。

٠	1-3	. PC側送受信装置	(推奨機種)
---	-----	------------	--------

PHSアクセスユニット	メーカー	NEC製				
(PAU-521RS)	概要	公衆、自営に対応(コマンド切換)				
		RS-232CによりPCと接続(ストレートケーブル使用				

◆4-3. 初期設定

・INIファイル変更ユーティリティは、WSV起動中の設定を受け付けません。 次回WSV起動時に設定が有効となります。

初期設定変更時は、WSVを閉じてからおこなうようにしてください。

・通常通信用ポート、警報受信用ポートに同一ポートを指定した場合、

[機器登録]→[TEL番号登録](P32)画面にて、通常通信用・警報受信用電話番 号入力時同一の電話番号を入力してください。電話番号を誤って入力すると、通 信動作ができなくなる場合があります。

◆7-2. 回転体振動ユニットの設定 アナログ入力設定

4) センサ感度補正について

別途ご購入の加速度センサに添付されています、検査成績書にあるセンサ毎 の感度差を補正する機能です。

センサー感度を設定することで、"1mV/m/s²"に調整されます。

以下の処理をおこなっています。

加速度値 × <u>1</u> = 実際の加速度 センサ感度補正値

文書 No. 95691-2255-0000

◆10-4. データ収録と表示更新時間

◆20-5-3. 表示更新間隔

ユニット数によるサンプル間隔、収録時間、表示更新時間の関係について。 ユニット数が増えると、データの欠測を防ぐために、表示更新時間の最小値が長 くなります。

1通信ポート時、以下の修正点があります。

収録間隔と表示更新時間(1通信ポート時)修正前

ユニット数	サンプル間隔		収録	間隔			表	示更	新時間
\frown	1s	1	s	~	6	h			
(1~2)	2s	2	s	~	12	h	(1 min)	~	収録間隔×360
\sim	5s~1h	5	S	~	24	h			
11 ~ 16	2s	$\sqrt{5}$	s	~	12	h	15 min	~	収録間隔×360
17 ~ 22	2s	5	s	~	12	h	20 min	~	収録間隔×360
23 ~ 33	2s	5	s	~	12	h	30 min	~	収録間隔×360
71 ~ 100	15s } 1h	15	s	2	24	h	90 min	~	収録間隔×360



収録間隔と表示更新時間(1通信ポート時)修正後

ユニット数 サンプル間隔			収録間隔				表示更新時間		
	1s	1	s	~	6	h			
(2)	2s	2	s	~	12	h	(3 min)	~	収録間隔×360
\sim	5s~1h	5	s	~	24	h			
11 ~ 16	2s	10	s	~	12	h	15 min	~	収録間隔×360
17 ~ 22	2s	10	S	~	12	h	20 min	~	収録間隔×360
23 ~ 33	24	10	s	~	12	h	30 min	~	収録間隔×360
71 ~ 100	20s)- 1h	20/	S	~	24	h	90 min	~	収録間隔×360

注)表示更新時間は24時間が最大となります。

表示更新時間は収録時間より小さくは設定できません。

◆11-3. 警報メール設定

・送信メッセージ入力文字数は、全角で64文字(半角128文字)まで入力可能です。

・E-mailであれば、送信先メールアドレスの制限はありません。

※監視PC(WSVをインストールするPC)のネットワーク設定については、ネット

ワーク管理者の指示により設定してください。

文書 No. 95691-2255-0000

NEC三栄株式会社

◆12-1. 監視開始

・監視開始前の注意事項

【注意】サンプル間隔・収録間隔の関係により、MT1200の設定を更新しなけれ ばいけない場合があるため、監視開始をする前に必ず全ユニットの設定 を行なってください。

·開始時刻指定

開始時刻指定で監視開始する場合、『現在時刻+表示更新時間の最短値』から設 定が可能となります。現在の時刻から、すぐ後の時刻指定では設定エラーとなる場 合がありますので、余裕を持った時刻設定にしてください。

※表示更新時間の最短値:ユニット数により決まる、表示更新時間の最短値です

(上記、収録間隔と表示更新時間を参照ください)

◆12-3. トレンド表示

メニューの[表示]→[トレンドグラフ]を選択するとトレンドグラフ表示されます。 この時、表示モードは必ず トレンド表示となります。

◆12-4. 詳細一覧表示

メニューの[表示]→[詳細一覧表示]を選択すると詳細一覧表示画面を開きます。 現在設定されている各設定情報を表示しています。

ここでの[状態表示]の状態とは、各信号タグの状態を表しています。

(取扱説明書:P59→ 6)"状態表示"の説明参照ください)

待機中ユニットの各信号タグ状態表示は"OFF"となります。

◆注意

【注意】本アプリケーションでは、文字入力時に (半角シングルクォーテーション) を使用することができません。

文書 No. 95691-2255-0000

NEC三栄株式会社

末長くお使いいただくために

NEC三栄株式会社

当社製品をご購入いただきありがとうございます。

当社では、ご購入いただいた製品を末長くご使用いただくために、次のような保守サービス体制 でのぞんでおります。

1. 保証期間

ご購入いただいた日より一ヶ年を保証期間とし万一故障が発生した場合に無償で修理させていただきます。(ただし、発生した故障が当社の責任の場合に限ります。)

2. 保証期間を過ぎた場合の保守サービス

保証期間を過ぎた場合には有償で修理サービスを承っております。 また、お客様のご要望によりオーバーホールも承っております。

3. 保守契約のおすすめ

当社ではご購入いただいた製品を常に安心して、ご使用いただくために定期点検保守も行ってお ります。校正費用+αの料金にて、製品保証をさせていただいております。 詳しくは保守サービス料金表をご参照下さい。

NEC三栄株式会社

〒190-8537 東京都立川市曙町1−25−12 TEL 042(522)0411代 FAX 042(522)0421

(修理)

本社

- 東日本地区(委託)
 日本電子応用株式会社 府中FEセンター
 〒183-0006 東京都府中市緑町3-16-7
 TEL 042(335)6765(代) FAX 042(352)7482
- 西日本地区(委託)日本電子応用株式会社大阪FEセンター〒564-0063大阪府吹田市江坂町2-13-13 (池上ビル)TEL 06 (4861) 6110代FAX 06 (4861) 2298
- 原子力FEセンターNEC三栄株式会社関西支店〒531-0073大阪府大阪市北区本庄西2-17-11 (OSTビル)TEL 06 (6375)1810代FAX 06 (6376)3153

お問い合わせ先

目	次

はじめに	4
ご使用になる前に	4
保証要項	5
ソフトウェア著作権について	5
1. 動作環境	6
1-1. 監視PC仕様	6
1-2. ワイヤレスセンシングモニタのタイプ	6
1-3. PC側送受信装置(推奨機種)	6
2. システム概要	7
2-1. 監視PCとMT1200の関係	7
2-2. 通信インフラとの接続について	7
3 インストール	8
3-1. インストール手順	8
3-2. WSV、BFV、IFU及びLabVIEWフンダイムエンシンのインストール	
3-3. LabVIEWフンダイムエンシングのインストール	
3-4. NI-VISAZ. $0177-17$	
3-5. MSDE() - ダベースエンジン)及びMSDE SF3のインストール	
4. 操作の流れ	22
4-1. 準備から終了まで	
4-2. MT1200、監視PC側PHS送受信装置の内線登録/消去方法	
4-3. 初期設定	
4-4. HDD容量の監視機能	30
5. プログラムの起動と機器登録	31
5-1. プログラムの起動	
5-2. 機器登録	
5-3. ユニット名称、信号タグ名称の登録	
5-4. グループ設定	
6. 温度・電圧ユニットの設定	35
6-1. 収録・監視信号タグの選択	
6-2. アナログ入力設定	
6-3. パルス入力設定	
6ー4. デジタルフィルタについて	
6-5. データ形式の選択	
6-6. ユーザスケール設定	40
6-6. ユーザスケール設定	40 41
6-6. ユーザスケール設定 7. 回転体振動ユニットの設定 7-1. 収録・監視信号タグの選択	40 41 41
6-6. ユーザスケール設定 7. 回転体振動ユニットの設定 7-1. 収録・監視信号タグの選択 7-2. アナログ入力設定	40 41 41 41
6-6. ユーザスケール設定 7. 回転体振動ユニットの設定 7-1. 収録・監視信号タグの選択 7-2. アナログ入力設定 7-3. パルス入力設定	40 41 41 41 41 42

8. 接点ユニットの設定	43
8-1. 収録・監視信号タグの選択	
8-2. 無電圧接点入力	
8-3. パルス入力設定	
8-4. ユーザスケール設定	
9. パルスユニットの設定	44
9-1. 収録・監視信号タグの選択	
9-2. パルス入力設定	
9-3. ユーザスケール設定	
10. 収録設定	45
10-1. サンプル間隔、収録間隔の設定	
10-2. 積算リセット間隔	
10-3. 収録の禁止	
10-4. データ収録と表示更新時間	
11. 警報設定	50
11-1. 警報条件の設定	
11-2. 警報出力の設定	
11-3. 警報メール設定	
11-4. 警報履歴	54
12. 監視	55
12-1 乾祖盟始	55
12-2 監視画面	57
	60
12-4. 詳細一覧表示	
12-5. 警報表示動作	
12-6. 監視終了	
13. 定時報告書	66
13-1. 定時報告書の設定	
14. CSVファイルのエクスポート	67
14-1. トレンドCSVファイルのエクスポート	
14-2. 設定一覧CSVファイルのエクスポート	
14-3. リアルCSV出力のエクスポート	
15. データベース	70
15-1. データベースについて	
15-2. データベースのサイズ	
15-3. バックアップファイル	70
16. バックアップファイルビューア	71
16-1. プログラムの起動	71
16-2. バックファイルビューアのトレンド表示	72
16-3. 詳細一覧表示、警報履歴表示、イベント履歴表示	72
16-4. バックアップファイルビューアからのCSV出力	72
16-5. バックアップファイルの削除	73
16-6. バックアップファイル参照フォルダ、CSVエクスポート出力フォルダの指定	74

17. その他の機能	75
17-1. 機器初期化	
17-2. リトライ回数の設定	75
17-3.表示更新時間表示の確認	
17ー4. Ver. 情報の確認	
18. メニュー一覧	77
19. アンインストール	78
19-1. ワイヤレスセンシングビューアのアンインストール	
10-0 しゅう//(国)//ランタイルエンパン/のマンノインストール	
19-3. NI-VISAのアンインストール	
19-3. NI-VISAのアンインストール 19-4. MSDEのアンインストール	

この度は、ワイヤレスセンシングモニタ MT1200(以下、MT1200と称す。)をお買い上げ、まことにありがとうございま す。ご使用の際には、MT1200本体の取扱説明書と共に本ソフトウェア取扱説明書をお読み頂き、正しくお取り扱い下さるようお願い申し上げます。

本説明書は、MT1200を管理するWindows用アプリケーションソフト「ワイヤレスセンシングビューア」の取扱いについて説明させていただくものです。PHSワイヤレス監視システムを正しく動作させ、安全にご使用いただく為に必要な知識を提供する為のものです。内容について不明な点がございましたら、当社営業担当にお問い合わせ下さい。

ご使用になる前に

●開梱の際には

冬季の寒い時期などに急に暖かい部屋で開梱いたしますと、CD-ROMの表面に露を生じ動作に異常をきたすおそれ がありますので、室温に馴染ませてから開梱するようお願いいたします。

●梱包内容の確認

本製品は十分な検査を経てお客様へお届けいたしておりますが、ご受領後開梱しましたら、CD-ROM外観に損傷がないかご確認下さい。また、本製品の仕様、付属品等につきましてもご確認をお願いいたします。万一、損傷・欠品等がございましたら、ご購入先にご連絡下さい。

●取扱い上の注意

- ◆ MT1200本体の取扱の注意事項についてはMT1200本体取扱説明書をご熟読下さい。 誤った取扱いをしますと、誤動作や故障の原因となります。
- ◆ 本ソフトウェアをインストールするPCおよびディスプレイの取扱い上の注意事項については、コンピュータ(以下、PCまたは監視用PCと称す。)およびディスプレイに付属の取扱説明書をご覧下さい。
- ◆ PHSモデム、PHSアクセスユニットPAU-502RS(以下、PAU-502RSと称す。)等のPCに接続する機器については、動作確認を実施した推奨品をご使用下さい。
- ◆ 監視用PCの仕様等、本ソフトウェアの十分な性能を発揮する為に必要な条件については厳守して下さい。
- ◆ 本ソフトウェアは、自営、公衆のPHSシステムを利用した監視システムを実現しますが、電波強度や電波障害等の影響により使用できないことがあります。事前の通信環境の確認をお奨めします。
- ◆ 定時報告書作成、出力用のMicrosoft Excel以外の本ソフトウェアと関係のないWindowsアプリケーションを同時に動作させないで下さい。動作エラー等を引き起こすおそれがあります。 また、Windowsシステムに関するデフラグや省電力設定なども設定しないで下さい。
- ◆ 本ソフトウェアの操作方法を理解している人以外の使用を避けて下さい。
- ◆ NEC三栄株式会社は、本ソフトウェアを使用した運用の結果に関しては、一切その責任を負うものではありません。

保証要項

本ソフトウェアは、Windows2000のプリインストール機器にて動作確認を行っております。

Windows2000へアップグレードした機器での不具合やWindowsに起因する不具合、本システムに想定されていない周辺 機器との相性の問題については保証できません。

また、本ソフトウェアの不具合についてはできる限りの対応を取らせていただきますが、不具合によるお客様の収録データについては保証しかねますのでご了承下さい。

その他、ソフトウェアのご使用条件については、別紙添付の「ソフトウェアのご使用条件」をご熟読下さい。

本ソフトウェアが管理対象とするMT1200は、一般工業機器です。高い信頼性を要求される設備監視機器や人名、火災に 関わる監視機器としてのご使用は意図されておりません。本システムの構成機器の故障、インフラの通信障害、通信異常に よるデータの欠測、警報異常に起因する人身事故、火災事故、社会的な責任が生じても、当社ではいかなる責任も負いかね ます。

PHS監視システムを構成する機器の修理や機器校正などのご要求は、最寄りの支店・営業所,または販売店へご相談下 さい。その場合には、本ソフトウェアのバージョン情報、使用機器の形式(MT1200のタイプ(MT12-101、MT12-102 等)、製造番号,機器バージョン情報、通信インフラの種類(PBX接続、公衆キャリア利用等)及び故障状況の詳細をお知らせ 下さい。

ソフトウェア著作権について

本ソフトウェアの著作権は、日本国憲法、国際著作権条例によって保護され、NEC三栄株式会社が保有しています。 本ソフトウェアと同時に配布するマイクロソフトデータベースエンジン(MSDE)は、マイクロソフト(株)の製品です。

単独で再配布することはできません。

本ソフトウェアと同時に配布するLabVeiwランタイムエンジンおよびNIーVISA は、ナショナルインスツルメンツ(株)の製品です。

1. 動作環境

1-1. 監視PC仕様

本ソフトウェアは、Windows2000プリインストールPCにて動作確認を行っております。 Windows2000へアップグレードしたPCでの動作や、以下の本システムに想定されていない周辺機器との接続に ついては動作保証できません。

対応OS	Windows2000(+サービスパック2以上推奨)
CPU速度	500MHz(推奨1GHz)以上
メモリ容量	128MB(推奨256MB)以上
ハードディスク容量	20GB(推奨40GB)以上 ^{*2}
ディスプレイ解像度	1024×768以上(表示は1024×768固定)
データ送受信用インタフェース	RS-232Cポート 1ポートまたは2ポート*1
PC側PHS送受信装置	PAU—502RS(NEC 製)
アプリケーションソフト	MicrosoftExcel 2000または2002
	(定時報告書作成、出力用)

*1 機器設定・データ収集用と警報待受用にPHS回線を2回線使用しますと、更に高い信頼性を確保できます。

*2 本ソフトウェアをインストールする際にディスク容量は、最低でも5GB以上必要です。

1-2. ワイヤレスセンシングモニタのタイプ

温度・電圧ユニット	熱電対(K,E,J,T)、サーミスタ温度計、DC電圧、電流(4~20mA)、無電圧接点、パルスカウ
(MT12-101)	ント、ON時間計測、イベント時刻記録、パルス波形の入力モードに対応
回転体振動ユニット	振動シビアリティ測定* ³ (加速度, 速度, 変位), ベアリング(H関数準拠* ⁴)、パルスカウン
(MT12-102)	ト、ON時間計測、イベント時刻記録、パルス波形の入力モードに対応
接点ユニット	無電圧接点、パルスカウント、ON時間計測、イベント時刻記録、パルス波形の入力モード
(MT12-104)	に対応
パルスユニット (MT12-105)	パルスカウント、ON時間計測、イベント時刻記録、パルス波形の入力モードに対応

*3 JIS B 0907-1989 に準拠しています。

*4 H関数はIMV株式会社殿が定める測定条件に準拠しています。

1-3. PC側送受信装置(推奨機種)

PHSアクセスユニット	メーカー	NEC製
(PAU-502RS)	概要	公衆、自営に対応(コマンド切換)
		RS-232CによりPCと接続(ストレートケーブル使用)

2. システム概要

2-1. 監視PCとMT1200の関係



監視PCでは、定期的にMT1200へ電話をかけ収録されているデータを吸い上げ、蓄積・表示していますが、MT1 200で異常を認識すると監視PCへ電話をかけ異常を知らせることができます。(パルス入力の積算モード時を除く)。 複数台のMT1200で監視システムを構築している場合、全てのMT1200のデータを吸い上げる時間を"表示更新時 間"と云います。この表示更新時間は、使用するMT1200の数と収録速度により最高速度が制限されています。

2-2. 通信インフラとの接続について



1)構内交換機(PBX)による内線接続

MT1200、PAU-502RSを構内交換機の内線として使用する為には、構内交換機に内線登録しなければなりま せん。交換機により登録方法が異なりますので、お客様の構内交換機を管理されている取引業者にお問い合わせ下 さい。また、お近くに構内交換機でPHSを使用している企業がある場合、相互に干渉する場合があります。干渉する (接続しにくくなる)場合には相互の構内交換機で同期をとるか、お互いに電波強度を弱める等の対策を取る必要があ ります。電波強度計で周囲の電波状況を確認することをお奨めします。

【注意】MT1200を使用する為、構内交換機の機能として、PIAFS対応のデータ通信をサポートしている必要があります。

2)PHS公衆網による接続

MT1200、PAU-502RS共に(株)NTTドコモ、DDIポケット(株)、(株)マジックメール(ASTEL電話サービス)の 何れかと公衆契約し使用することができます。(いづれも安価なテレメタリングサービスを利用することができます。) その際、使用される周囲で契約を希望するPHS網の電波が届くかどうか電波状況を確認することをお奨めします。

3. インストール

確認

これより本ソフトウェアーのインストールを開始するにあたり、もう一度、ハードディスクの容量が20GB以上ある ことを確認してください。

準備

インストール作業を行う前に、他のアプリケーションソフトウェアをすべて終了してから行ってください。

3-1. インストール手順



CD-ROMをPCのドライブにセット後、自動的にCD-ROMが動作し、最初にWSV(ワイヤレス・センシング・ビューア) インストール画面が表示されます。

そのインストール画面に従ってこれよりインストールを行っていきます。

3-2.WSV、BFV、IFU及びLabVIEWランタイムエンジンのインストール

1) CD-ROMをPCにセットすると、自動的にインストール画面が表示されます。 次に、WSV&RunTime Engine インストールのボタンをクリックします。

<i>ተ</i> ጋス⊦−ルキーወ入力	WSV(ワイヤレス・センシング・ビューア)インストール	×	
	WSV & RunTime Engine インストール		
	VISA2, 6インストール		WSV&RunTime Engine インストール のボタンをクリックする。
	MSDE & MSDE SP3インストール		
	データベースの作成		
	インストール終了		
Ľ			

初めて、インストールする場合は、インストール先のフォルダを指定し、 次へ をクリックします。

InstallShield ウィザート®		×
	WSV用のInstallShield ウィザードへようこそ InstallShield (R) ウィザード1ま、WSVをコルシータニイ 次へ]を別ッかして、続行してくださし。	νスト〜ルします。[
		**>±#
InstallShield ウィザート		X
インストール先の選択 セットアップがファイルをインストール	するフォルタを選択してください。	
セットアッフりは、)欠のフォルタリこ ハ	WSV をインストールします。	
このフォルタへのインストールは、	D欠へ]ホダンをソリックします。	
別のフォルダヘインストールするナ	易合は、[参照]は汶ンを別ックしてフォルタを追	器択してください。
ーインストール先のフォルダーーー C:¥wsv		参照(R)
InstallShield	< 戻る(<u>B</u>)	(1) </td

2) セットアップタイプを選択します。

「標準(WSVとBFV)」を指定し、 次へ をクリックします。

ワイヤレスセンシングビューア(WSV)とバックアップファイルビューア(BFV)、INIファイルユーティリティ(IFU)をインス トールします。「BFVのみ」では、バックアップファイルビューア(BFV)のみインストールされます。

InstallShield ウィザート*	×
セットアッフ* タイフ* ご利用方法に合わせて最適なセットアッフ* タイフ*を選択してください。	
通切なたった。そのようでを対しつしてください。 標準WSVとBFV) BFVのみ	-説明 ワイヤレス・センシング・ビューアとバ ックアップ・ファイル・ビューアをインス トールします。
InstallShield < 戻る(日	次へ (11)> キャンセル

3) 次へ でファイルのコピーを開始します。



4) ファイルがコピーされ、完了画面が表示されます。 完了 をクリックしインストールが完了ます。

InstallShield ウィザ [、] ード		
	InstallShield ウィザ[、]ードの完了 セットアッフりは、コンビュータへのWSVのインストールを完了しました。	
	< 戻る(B) (見て) キャンセル	

5) 続けて、LabViewランタイムエンジンのインストールが開始されます。

3-3. LabVIEWランタイムエンジンのインストール

1) **次へ** をクリックするとインストール先フォルダの指定画面が表示されます。 変更する場合は **参照** をクリックしてフォルダを指定します。



2) ファイルがコピーされます。



3) LabViewランタイムエンジンのインストール完了画面が表示されます。 終了 をクリックしインストール完了ます。

3-4. NI-VISA2. 6インストール

WSV&Runtime Engine のインストールが終了すると次に下記に示す画面が表示されますので、 VISA2. 6インストールのボタンをクリックしてNI-VISA2. 6のインストールを開始します。



1) Setup をクリックします。インストールの準備をします。





2) 次に、 Next のボタンをクリックする。

😼 NI-VISA 2.6 Runtime		
	2.6	
NI-VISA [™]		
National Instruments VISA Software		
It is strongly recommended that you exit all programs before running this Setup. This program is subject to the accompanying National Instruments Software License Agreement. For patents covering National Instruments products, refer to the Help>>Patents menu item in your software (if applicable), the patents.txt file on your CD (if applicable), and/or nicom/patents.	y	
ni.com/visa		
<< Back	<u>C</u> ancel	

3) ライセンス内容に同意します。

NI-VISA 2.6 Runtime	X
License Agreement You must agree with the license displayed below to proceed National	NI-VISA [™] Instruments VISA Software
NATIONAL INSTRUMENTS SOFTWARE LICENSE	AGREEMENT
INSTALLATION NOTICE: THIS IS A CONTRACT. BEFORE YOU DOWNLI COMPLETE THE INSTALLATION PROCESS, CAREFULLY READ THIS A DOWNLOADING THE SOFTWARE AND/OR CLICKING THE APPLICABL INSTALLATION PROCESS, YOU CONSENT TO THE TERMS OF THIS A TO BE BOUND BY THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT WISH TO BEC AGREEMENT AND BE BOUND BY ALL OF ITS TERMS AND CONDITION BUTTON TO CANCEL THE INSTALLATION PROCESS, DO NOT INSTALL RETURN THE SOFTWARE WITHIN THIRTY (30) DAYS OF RECEIPT OF ALL ACCOMPANYING WRITTEN MATERIALS, ALONG WITH THEIR CO OBTAINED THEM. ALL RETURNS SHALL BE SUBJECT TO NI'S THEN O	OAD THE SOFTWARE AND/OR AGREEMENT. BY E BUITON TO COMPLETE THE GREEMENT AND YOU AGREE OME A PARTY TO THIS NS, CLICK THE APPROPRIATE L OR USE THE SOFTWARE, AND THE SOFTWARE (INCLUDING NTAINERS) TO THE PLACE YOU CURRENT RETURN POLICY.
*This license agreement is available in English, French, German, Japanese, Italian and Spanish on the installation CD.	ot the License Agreement
K	Next >> Cancel

4) インストールタイプとして "Complete" を選択し、Next をクリックします。

NI-VISA 2.6 Runtime		
Select Installation Type Select the desired installation type	NI-VISA [™] National Instruments VISA Software	
Complete All application features will be installed. C Custom Use this option to choose which application feature Recommended for advanced users.	s you want installed and where they will be	e installed.
	<< Back Next >> C	<u>ancel</u>

5) Next をクリックして インストールをスタートします。

NI-VISA 2.6 Runtime	_ 🗆 🗵
Start Installation Please review the actions to be taken before continuing National Instruments VISA Software	
The following features will be added or changed:	_
NI-VISA 26 Run Time Support Pdf GPIB Serial VXI GPIB-VXI The following features will be removed:	× -
	×
During the installation, this installer may spawn uninstallers for previous versions of National Instru software.	ments driver
Press the Next button to begin or the Back button to change the installation	
	<u>C</u> ancel

6) Close をクリックしてインストールを終了します。

NI-VISA 2.6 Runtime	
Installation Complete National	NI-VISA [™] Il Instruments VISA Software
Press the Close button to exit this installation.	
Register Online	
	Next >> Close

7) **[はい(Y)** をクリックすると自動でPCの再起動が開始されます。 ※もし、下記の画面が表示されない場合には、次の画面が表示されますので、その指示に従ってください。



上記の画面が表示されない場合には、下記に示す画面が表示されますので、 OK をクリックすることにより、 PCの再起動を行います。



8) 再起動後は、3-5. MSDE & MSDE SP3のインストールの作業に移ります。

3-5. MSDE (データベースエンジン) 及びMSDE SP3のインストール

MSDE及びMSDE SP3のインストールを開始します。

CDをCD-ROMドライブに挿入します。その後、インストール画面が表示されますので、MSDE&MSDE SP3の ボタンをクリックしてインストールを開始します。



1) 上記ボタンをクリックするとセットアップが開始され、下の画面が表示されます。



【注意】セットアップが終了するまで、約5分間かかります。この画面の状態でしばらくお待ち下さい。

セットアップが終了すると、本画面は自動的に閉じます。

続いて、MSDE SP3のインストールを開始します。

1) セットアップの開始

"ようこそ"画面が起動されます。

全てのWindowsプログラムが終了していることを確認し、次へ をクリックして下さい。セットアップが開始されます。



2) 製品ライセンス契約



"製品ライセンス契約"画面が起動されます。 はい をクリックします。

3) サーバーの接続

"サーバーの接続"画面起動されます。

サーバーの接続	×
	セットアップが SQL Server への接続に使用する認証モードを選択し てください。
	 SQL Server システム管理者のログイン情報 (SQL Server 認証) (S)
	SA ログインのパスワードを入力してください:
	○ コンピュータにログオンに使用した Windows NT アカウント情報
	(Windows NI ‱ait/\ <u>w</u> /
	< 戻る(B) (次へ(N)) キャンセル

"SQL SERVER システム管理者のログイン情報(SQL SERVER 認証)(S)"のラジオボタンをクリックします。 SA ログインのパスワードが入力可能になりますが入力せずに、 次へ をクリックします。 この画面から次の画面に変わるまで、約1分かかります。

【注意】 パスワードは、設定しないで下さい。

4)ファイルコピーの開始

"ファイルコピーの開始"画面が起動されます。 **次へ** をクリックして下さい。ファイルのコピーが開始されます。

ファイル ユピーの開始	×
	プログラム、ファイルのコピーを開始するために必要な情報が設定されました。[次へ] をクリックすると、ファ イルのコピーを開始します。
	< 戻る(B) (次へ(N)) キャンロル



5) "セットアップ"画面が起動されます。 OK をクリックして下さい。

	セットアップ
	sa' ログインのパスワードがブランクです。これはセキュリティ上危険です。
6)	認証モード
	"認証モード"画面が起動されます。
	"混在モード(Windows 認証および SQL Server 認証(M)"のラジオボタンをクリックします。
	" 空のパスワード(非推奨)(<u>k</u>) "をチェックします。 次へ をクリックします。
	認証モード 🛛
	警告: SQL Server インストールの既定のセキュリティの選択は変更されます。
	混在モードのセキュリティを使用し続ける場合は、サービス パックのセットアップを続行する前に適当 なオプションを変更し、'sa' ログインのバスワードを設定してください。
	○ Windows 認証モード(W)
	○ 混在モード (Windows 認証および SQL Server 認証)(M)
	SA ログインのパスワードを追加:
	バスワードの入力(症):
	パスワードの確認(症):
	▼ 空のパスワード (非推奨)(0)
	〈 戻る(日) (法へ(11)) キャンセル
- \	

7) セットアップ完了

セットアップの完了は、以	下の	2 種類のうち、どちらかの画面が表示されます。
再起動要求画面	\rightarrow	8)再起動要求画面が表示された場合 へ
Readme 表示要求画面	\rightarrow	10)Readme 表示要求画面が表示された場合 へ

【注意】表示された画面によって処理が違うので注意して下さい。

8) 再起動画面が表示された場合

再起動を要求する画面が起動されます。

"*はい、直ちにPCを再起動します。*"のラジオボタンをクリックし、CD-ROMドライブからCDを取り出し、 完了 をクリックして下さい。



- 9) PCが再起動されます。 再起動が完了したらMSDE SP3のインストールは終了です。
- 10) Readme 表示画面が表示された場合、Readme の表示要求の画面が起動されます。 <u>"□**Readme の表示**</u>"のチェックを外します。

完了 をクリックすると画面が終了します。



11)次に、確認画面が表示されますので、 OK をクリックしてください。 その後、PCは自動的に再起動を行い完了したらMSDE&MSDE SP3インストールは終了です。

インストールキーの入力	X
WSV(ワイヤレス・センシング・ビューア)インストール	
WSV & RunTime Engine インストール	
VISA2. 6インストール	
確認 アログラムを使用するには、コンピュータを再起動する必要があります。 再起動を行いますか? 下一タベースの作成	
インストール終了	

- 3-6. データベースの構築のインストール データベースの構築を行います。データベースを構築するドライブには3GB以上のHDD空き容量が必要です。
 - 1) CD-ROMをPCにセットすると、自動的にインストール画面が表示されます。 次に、データベースの作成のボタンをクリックします。

インストールキーの入力		×		
	WSV(ワイヤレス・センシング・ビューア) インストール			
	WSV & RunTime Engine インストール			
	VISA2, 6インストール			
	MSDE & MSDE SP3インストール			
	データベースの作成			
	インストール終了		データベース のボタンをク	くの作成 リックする。

2) データベースの作成先設定

データベースを作成するフォルダを指定して下さい。デフォルトのパスは以下のようになっています。

DB Data Baseセットアップ	
フォルダ BC¥MSSQL7¥Data	
実行終了	HDD容量によってはドライブ指定を 変更してください。 3GB 以上の空き容量が必要です。

3) データベース作成

DB Data	Baseセットアップ	×
	フォルダ B.C.¥MSSQL7¥Data	
	データベースを作成しています	
	実行終了	
【注意】	データベースファイル名はWSV_DB.mdf、WSV_DB. ldf です。	

これらのファイルは絶対に削除しないで下さい。本システムが動作しなくなります。

4) データベースの作成完了 終了 をクリックして下さい。

DB Data Baseセットアップ	×
フォルダ 限C:¥MSSQL7¥Data	
データベースのセットアップが完了しました	
実行 終了	

5) 下記に示す画面が表示されますので インストール終了 をクリックして全てのインストール作業を終了します。

インストールキーの入力		
	WSV(ワイヤレス・センシング・ビューア)インストール	
	WSV & RunTime Engine インストール	
	VISA2. 6インストール	
	MSDE & MSDE SP3インストール	
	データベースの作成	
	インストール終了	

<以上でインストール作業はすべて終了です。>

4-1. 準備から終了まで



4-2. MT1200、監視PC側PHS送受信装置の内線登録/消去方法

内線登録および消去は、ハイパーターミナル等のターミナルソフトを使用し、装置にコマンドを入力することにより行われます。以下の手順に従い、操作して下さい。

【注意】公衆PHSをお使いの場合は、内線登録は必要ありません。 内線登録は交換機を管理する部署もしくは交換機納入業者にご依頼下さい。

1) MT1200の内線登録/消去方法

手順① 監視PCとMT1200をRS-232Cケーブル(クロス)で接続します。

手順2 ハイパーターミナルを起動します。

「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパータミナル」と選択しハイパーターミナルを起動します。 「接続の設定」「新しい接続」では「mt1200」(何でもよい)と入力し「OK」をクリックします。

接続の設定	? ×
●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●	
名前を入力し、アイコンを選んでください。	
名前(<u>N</u>):	
mt1200	
アイコン型:	
N 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1
OK **	セル

接続の設定	<u>? ×</u>
電話番号の情報を	入力してください。
国/地域番号(<u>C</u>):	日本 (81)
市外局番(E):	042
電話番号(<u>P)</u> :	
接続方法(N):	COM1
	OK キャンセル

接続の設定「mt1200」が表示されますので、接続に使用 する通信ポートを「接続方法」で選択します。OK をクリックし ますと、COM1(選択したポート)のプロパティが表示されま す。

COM1のプロパティ	<u>? ×</u>
ポートの設定	
	_ []
ビット/秒(B): <mark>19200 </mark>	
データ ビット(<u>D</u>): 8	
パリティ(型): なし 💌	
ストップ ビット(S): 1	
7日 - 制御(E): 「ハードウェア 💌	
既定値に戻す(R)	
	(<u>A</u>)

監視PCのCOMポートの通信設定は次のように設定します。

ビット/秒:19200、データビット:8、 パリティ:なし、ストップビット:1、 フロー制御:ハードウェア 手順③ ハイパーターミナルのプロパティを立ち上げる。

[ファイル] - [プロパティ]を選択し、ハイパーターミナルのプロパティを開いて下さい。

	<u>- I ×</u>
	× ×
切断 自動検出 1200 8-N-1 SCROLL CAPS NUM キャ・ エコーを印	1.

手順④ ハイパーターミナルのプロパティの設定。 [設定]-ASCI設定]をクリックして下さい。

mt1200のプロパティ	? ×
接続の設定設定	
ファンクション キー、方向キー、Ctrl キーの使い方 ● ターミナル キー(T) ● Windows キー(W)	
BackSpace キーの送信方法 ④ Ctrl+H(<u>C</u>) 〇 Delete(<u>D</u>) 〇 Ctrl+H、スペース、Ctrl+H(<u>H</u>)	
Iミュレーション(E):	
自動検出 ▼ ターミナルの設定(2)	
Telnet ターミナル ID(<u>N</u>): ANSI	
バッファの行数(B): 500 芸	
□ 接続/切断時に音を鳴らす(P)	
<u>エンコード方法</u> Ф ASCII 設定(A))
OK \$+#>1	211

「ASCIIの送信」を下のように設定します。 OK クリックすることにより入力画面となります。

A	CII 設定	<u>?</u> ×
	ASCII の送信	
(▶ 行来に政行文字を付ける(S)	
	□ – ガルエコーする(E)	
	ディレイ (行)(L): 0 ミリ秒	
	ディレイ (文字)(©): 0 11秒	
	ASCII の受信	
	□ 着信データに改行文字を付ける(A)	
	□ 若信データを強制的に 7 ビット ASCII (こする(E)	
	▶ 右端で折り返す(₩)	
	OK キャンセノ	L I

手順⑤ MT1200へのコマンド入力

ハイパーターミナル画面上でコマンドを入力することにより、その内容がMT1200に送られ、モードの切り 換えやMT1200からの情報出力等が行われます。

🍓 mt1200 - /\イパーターミナル	
ファイル(E) 編集(E) 表示(W) 通信(C) 転送(T) ヘルブ(H)	
	1.4
^{I₩H_} 半角大文字で入力します。	
 接続 000:10 自動検出 1200 8-N-1 SCROLL CAPS NUM キャ・ 「エコーを印	

- 手順⑥ MT1200との通信の確認の為、MT1200のバージョンを返すコマンドを入力します。 MH Enter と入力します。 MT1200 V1. 3, ◇, □ と返されます。 (本体バージョン1. 3, ◇, □は構成ユニットコードを表します。)
- 手順⑦ MT1200のPHS通信ユニットに直接アクセスする為のモード(TESTモード)へ移行させます。 ETM Enter と入力します。 test mode と返され、テストモードへ移行したことを表します。 以後、ATコマンド(半角大文字/小文字)により、MT1200のPHS通信ユニットに直接アクセスすることがで きます。

AT Enter と入力します。 OKと返されます。(ATコマンドで動作していることが確認できます。)

【注意】**OK を確認できない場合は、次に進んでも正常に動作しません。** ハイパーターミナルの再立ち上げ、MT1200の電源OFF/ONを行い、「AT」の再入力や「IWH」 からやり直して下さい。

手順⑧ MT1200をSO登録モードにして、内線登録する準備をします。

以下のようにコマンドの後に暗証番号、内線番号を入力し、交換機の準備が終わるまで待機して下さい。 交換機にPS-ID(本体PHS通信ユニットのID番号)を入力して内線登録の準備を行います。

AT ! SOSxxxx/oooo

▲ _____ oooo:内線番号(1桁~12桁:0~9) ▲ _____ xxx:暗証番号(1桁~4桁:0~9、*、#) 手順9 交換機の設定ができた後、 Enter を押して下さい。すぐに、オンエアー(無線)で登録を開始します。 交換機から内線登録または消去が行われます。 (交換機の取り扱いについては、交換機納入業者にお問い合わせ下さい。)

Enter → (返答待ち)

SO登録/消去が正常に行われた場合には、PCに「OK」と返されます。 もし、SO登録/消去が失敗した場合には、PCに「ERROR」と返されます。 失敗した場合は、再度SO登録/消去を行って下さい。

【注意】SO登録後は、成功・失敗に関わらず、必ずMT1200の電源のOFF/ONを行って下さい。

手順¹ OKの場合は、実際に内線番号が登録されたかどうか確認します。 AT#MY? → xxx :登録された内線番号xxxを表示

設定した内線番号が表示されたらSO登録は完了です。

手順① テストモードの終了は、ESC + Enter キーを入力します。

以上で、MT1200の設定は終了です。

2) PAU-502RSの内線登録/消去方法

PAU-502RSを内線登録します。

PAU-502RSについてはMT1200と同様に「ハイパーターミナル」を起動し交換機からオンエアー(無線)登録を 行います。この項では、PAU-502RSの内線登録/消去方法について説明します。他のPHS端末については、 マニュアル参照するか、ご購入先にお問い合わせ下さい。

手順① PAU-502RSをRS-232Cケーブル(ストレート)で接続します。

手順② ハイパーターミナルを起動します。

「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパータミナル」と選択しハイパーターミナルを起動します。 接続の設定 | 「新しい接続」では「PAU-502RS」(何でもよい)と入力し「OK] をクリックします。

接続の設定	? ×
戦 新しい接続	
名前を入力し、アイコンを選んでください。	
名前(<u>N</u>):	
PAU-502RS	
<u>アイコン型:</u>	
- No	1
OK **)	1211

接続の設定		? ×
🧞 РАИ-50)2RS	
電話番号の情報な	を入力してください。	
国/地域番号(<u>C</u>):	日本 (81)	7
市外局番(E):	042	
電話番号(<u>P</u>):		
接続方法(<u>N</u>):	COMI	•
	ОК	キャンセル
COM1のプロパティ ポートの設定		<u>?</u> X
COM1のプロパティ ポートの設定		<u>?</u> ×
COM1のプロパティ ポートの設定 ビン	r⊦∕ŧ୬(B) <mark>[19200</mark>	?×
COM1のプロパティ ボートの設定 ビッ データ	ν⊦/₩.(B). <mark>[19200</mark> 1 Ĕ୬ト(D). [8	
COM1のプロパティ ポートの酸定 ど3 データ ノ	ット/秒(B)- <mark>[19200)</mark> : ビット(D)- [8 (リティ(D): 「なし	?× •

[接続の設定]「PAU-502RS」が表示されますので、接続 に使用する通信ポートを「接続方法」で選択します。OK]を クリックしますと、COM1(選択したポート)のプロパティが表示 されます。

監視PCのCOMポートの通信設定は次のように設定します。

ビット/秒:1200、データビット:8、 パリティ:なし、ストップビット:1、 フロー制御:ハードウェア

手順③ ハイパーターミナルのプロパティを立ち上げる。

フロー制御(E): ハードウェア

[ファイル] - [プロパティ]を選択し、ハイパーターミナルのプロパティを開いて下さい。

•

既定値に戻す(民)

OK キャンセル 適用(A)

※PAU-502RS - ハイパーターミナル ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 通信(C) 転送	D ヘルプ(日)			-O×
D 🖻 🚳 🔊 🖻				
				×
接続 0:00:06 自動検出 自動検出	SCROLL CAPS	NUM Fr	エコーを印	1.

手順④ ハイパーターミナルのプロパティの設定。 [設定] – ASCII 設定] をクリックして下さい。

PAU-502RSのプロパティ	? ×
接続の設定設定	
ファンクション キー、方向キー、Ctrl キーの使い方 ● <u>ターミナル キー()</u> ● Windows キー(<u>W</u>)	
BackSpace キーの送信方法 ④ Ctrl+H(<u>©</u>) 〇 Delete(<u>D</u>) 〇 Ctrl+H、スペース、Ctrl+H(<u>H</u>)	
<u> エミュレーション(E):</u>	
自動検出 	
Telnet ターミナル ID(<u>N</u>): ANSI	
バッファの行数(B): 500 🗄	
□ 接続/切断時(c音を鳴らす(P)	
<u>エンコード方法型</u> ASCII 設定(<u>A</u>)	>
OK キャン	ยม

「ASCIIの送信」を下のように設定します。 OK クリックすることにより入力画面となります。

A	SCII 設定 ? 🔀
	ASCIIの送信
(▶ 行末に改行文字を付ける(S)
	▼ □-カルエコーする(E)
	ディレイ (行)(上): 0 ミリ秒
	ディレイ (文字)(<u>C</u>): 0 刻秒
	ASCIIの受信
	着信データに改行文字を付ける(A)
	🔲 着信データを強制的に 7 ビット ASCII (こする(E)
	▶ 右端で折り返す(型)
	OK キャンセル

手順5 PAU-502RSへのコマンド入力し、自営設定モードにします。 ハイパーターミナル画面上でコマンドを入力することにより、その内容がPAU-502RSに送られます。

AT#m=1 Enter と入力します。 OKと返されます。

> 【注意】**OKを確認できない場合は、次に進んでも正常に動作しません。** ハイパーターミナルの再立ち上げ、PAU-502RSの電源OFF/ONを行い、再度やり直して下さい。

手順⑥ PAU-502RSをSO登録モードにして、内線登録する準備をします。

以下のようにコマンドの後に暗証番号、内線番号を入力し、交換機の準備が終わるまで待機して下さい。 交換機にPS-ID(本体PHS通信ユニットのID番号)を入力して内線登録の準備を行います。

AT ! SOSxxxx/oooo

手順⑦ 交換機の設定ができた後、 Enter を押して下さい。すぐに、オンエアー(無線)で登録を開始します。 交換機から内線登録または消去が行われます。 (交換機の取り扱いについては、交換機納入業者にお問い合わせ下さい。)

Enter → (返答待ち)

SO登録/消去が正常に行われた場合には、PCに「OK」と返されます。 もし、SO登録/消去が失敗した場合には、PCに「ERROR」と返されます。 失敗した場合は、再度SO登録/消去を行って下さい。

【注意】 SO登録後は、成功・失敗に関わらず、必ずPAU-502RSの電源のOFF/ONを行って下さい。

手順⑧ OKの場合は、実際に内線番号が登録されたかどうか確認します。

AT#my? → xxxx :登録された内線番号xxxxを表示

設定した内線番号が表示されたらSO登録は完了です。

手順9 PAU-502RSの通信速度を9600bpsに設定します。

ATF51 Enter と入力します。 OKと返されます。

手順⑪ PAU-502RSの電源のOFF/ONを行って下さい。

以上で、PAU-502RSの設定は終了です。

4-3. 初期設定

デスクトップアイコンより INIファイル変更ユーティリティ(IniFileUtility)を起動します。 起動時に、接続されたモデムの初期設定を行い、下記の監視画面を表示します。



INIファイル変更ユーティリティの

デスクトップアイコン

1)通信ポートの指定

各ポートが監視PCのどのコネクタに割り振られているかは、「スタート」→「設定」→ 「コントロールパネル」 から「システム」 を開き、更に「ハードウェア」→「デバイスマネージャ」 からポート(COMとLPT)で使用予定の通信ポートの番号を確認します。



通常通信用ポートと警報受信用ポートのCOMポートを指定します。1ポート のみで通信する場合は、両者を同じポートに指定します。

2)通信用PHSモデムの指定

各ポートに使用する通常通信用モデムと警報受信用モデムを指定します。 各設定に該当するモデムは次の通りです。

PAU	NEC製PHSアクセスユニット「PAU-502RS」		
TD-PHSAD	テレコム電子製PIAFS対応PHSアダプタ「TD-PHSAD」		
Aterm	NEC製ワイヤレスTA「IWX70D」		
Pin	DoCoMo製PHSデータ通信カード「Pin Comp@ct」		

※1ポートのみで通信する場合は、両者に同じモデムを指定します。

3) リアルCSVの設定

ワイヤレスセンシングビューアでは、各ユニットから吸い上げられたデータを他のシステムで使用可能にする為、常に リアルCSVファイルで出力することが可能です。(「14-2 リアルCSV出力」参照) リアルCSV出力機能を使用する場合は、 ON に設定し、出力フォルダを指定します。

4) バックアップファイル出力先の設定

ワイヤレスセンシングビューアでは、データの保存の為監視開始~停止までのデータをバックアップファイルとして作成 することが可能です。この保存されたファイルは、バックアップファイルビューアで確認が行えます。 バックアップファイルを作成する出力先フォルダを指定します。

4-4. HDD容量の監視機能

ワイヤレスセンシングビューアでは、CSVファイルや バックアップファイルの出力先や本システムの稼働状況 を記録するログファイル作成先HDD(ハードディスク ドライブ)の容量を定常的に監視し、いずれかのドライブ の空き容量が600MB以下となった場合、警報を表示し 以後のファイル作成を禁止します。

₩SV 警告	×
Cドライブの空き容量が 600.0MB以下になりました。 不必要なファイルを消す等して 空き容量を増やして下さい。	



5. プログラムの起動と機器登録

【注意】プログラム起動前に、PAU等のPHS送受信装置がPCに接続され、MT1200、PHS送受信装置と も電源ONとなっていることをご確認下さい。

5-1. プログラムの起動

デスクトップアイコンよりワイヤレスセンシングビューアを起動します。 起動時に、接続されたモデムの初期設定を行い、下記の監視画面を表示します。



	89ワイヤレス センシング ビューア ファイル 裸器登録 設定 表示 システム	USUワイヤレスセンシング ファイル 機器登録 02/07/09 14)ビューア 設定 表示 システム : 32:11	ワイヤ デスク	ッレスセン ットップアイ	シング イコン	ビュー7	70 ×
1	02/07/09 14:32:11						監視開始	nb
			No. ユニット名 状態 D ②1 二 二 二 ③ 3 4 4 ⑤ 6 - 6 ⑦ 7 - 8 ⑨ 9 - 9 10 11 - 11 12 13 - 13 14 15 - 16 16 16 - 19 19 - 19 - 20 - 22 - 23 - - 24 26 - - - 27 - 28 - 29 30 - -					
			$\begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $					

モデムの初期化に失敗した場合

モデムの初期化に失敗すると、再試行するかキャンセルするか確認表示を行います。

<mark>WSV</mark>	×
モデムの初期化に 再初期化しますか	失敗しました。 ?
再初期化	キャンセル

【注意】モデムの初期化に失敗した場合、モデムタイプの指定が間違っていないかご確認下さい(4-3. 初期設定)。
5-2. 機器登録

1)通常通信用電話番号登録

[機器登録] → [TEL番号登録] にてMT1200に管理PC(監視PC)の電話番号を入力します。 主に、パラメータ設定、データ収録用の通信ポートとなります。

2) 警報受信用電話番号登録

同様に、MT1200側で警報と認識したときの緊急連絡先(監視PC)の電話番号を入力します。 警報用の通信ポートとなります。

【注意】 電話回線を1回線のみで動作させる場合、通常通信用電話番号と警報受信用電話番号に同じ電話番号を登録して 下さい。尚、1回線のみ電話回線で監視する場合、データ吸い上げ時に警報受付時間を設けますので、2回線で動 作させる場合より、表示更新時間が増えます。

3) MT1200の登録

監視ソフト(WSV)にMT1200の電話番号を登録します。 [機器登録] → [TEL番号登録] にて各ユニットのTEL番号(内線登録番号または公衆契約番号)を入力します。 入力可能な文字は、0~9, #, /, *, −, F, P です。(公衆登録番号入力時は 070 から数字のみ入力します。)

٦

【注意】2ユニット連結の場合	も同様に一つのTEL	番号を設定し	します。					
WSUワ 1 アレス センシング ビューア								×
ファイル 裸器登録 設定 表示 システム ヘルプ 7 02/07/09 14:32:11							Ē	視開始
•]		No. ユニット名 ◇1 2 3	状態 DO	1 2	3 4 5	67	8 9 11	0 11 12
	WPTEL参加数							
		48 49 50						

4) ユニットスキャン機能

機器登録後、OK クリックするとユニットスキャン実行確認画面が表示されます。 実行すると登録した各MT1200から機器構成、設定内容等を読み出し、入力設定画面を生成します。同時にPCの時 刻にMT1200の時計を合わせます。



【注意】

登録機器の変更の際には、必ず、ユニットスキャンを行います。 ユニットスキャンには時間がかかりますので結果表示までお待ち下さい。 各MT1200から機器構成、設定内容等を読み出し、監視画面を生成します。 監視画面には、登録した各ユニットタイプが表示されます。

₩\$₽ワイヤレス センシング ビューア									×
ファイル 機器登録 設定 表示 システム ヘル	プ								
02/07/09 14:32:11								監視開始	
					- / - / - /				
 → ¬=vト1 → 		No. ユニット名 ▲1 フェット1	祆懸 L	DO 1 2 DO A1 A2 D	3 4 5 A3 P1 P2	6 / 8 P3	3 9	10 11	12
		02 <u>1</u> _vh2	i	DO A1 A2	43 P1 P2	P3			
アナログ1	3 °	3 4					_		_
アナログ2		5							
<u>アナログ3</u>	V	6					_		
1811.7.1	WSUフェットスキャン/結果				×	1			
1912.0					<u></u>				
1002									
7,023	ユニット人キャン 止常終了								
	W/2M兼号 電話兼号		コニットを称		1.1				_
	0 1 #/93 温度	€·雷圧,振動	1_71-4040						
					_				
					_				
							_		
					_				
							_		
< <u>1</u> =yト2 ⊽					Ψ.				
7707	-	閉じる							
77072	=								
<u>рудруз</u>		33							
パルス1		35							
パルス2		36					_		_
パルス3		38							
		39 40							
		41							
		43							
		44							
		46							
		47							
		49							
		50							

5-3. ユニット名称、信号タグ名称の登録

登録したMT1200に、設置場所や入力信号名を登録します。お客様の固有の監視場所・監視装置・データ名を登録 することにより監視画面、トレンド表示、警報表示など全ての表示を登録された名前で表します。

[機器登録]→[ユニット登録]にて各ユニット名称(設置場所など全角8文字まで)を入力します。 [機器登録]→[ユニット登録]→[タグ登録]にて信号タグ名称(設置場所、用途など全角8文字まで)を入力します。

<mark>₩SU</mark> ユニット	登録			×		<mark>₩SV</mark> 信号성	ジ名称登録		X
No	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	2連	フェット名称	タガタ		ر ه م	名称登録 -		
1	#/93	1	温度·雷庄	55.9 ×		AN	ALOG1	温度1	
	#/00		塘動	57-0 B		AN	ALOG2	接点2	
2	#/93	2	加及動		\sim	AN	ALOG3	電圧3	
3				タグ名登録		PUL	.SE1	パルスカウント1	
4				タヴ名登録		PUL	.SE2	ON時間計測2	
5				タグ名登録		PUL	.SE3	イベント時刻記録3	
6				タヴ名登録					
7				タグ名登録					
8				タヴ名登録					
9		T T							
10				タヴ名登録					
			ОК	**>\tr				開じる	

【注意】ユニット名称は、ファイル用に使用する為、以下の文字は使用で下さい。 半角 ¥ / :; * " ' < > | , ?

5-4. グループ設定

異なるユニットの信号タグを同一トレンド表示で表示することができます。1グループには、ユニットをまたがる6信 号タグまで登録でき、最大5グループまで管理できます。

[機器登録]→[グループ登録]にて任意の信号タグをグループとして設定します。

<mark>₩SU</mark> グループ	登録		×						
					wsv グループ詳細	細登録			×
No.	グループ名	タヴ名			グル	ープ1			
1	グループ1	タガ名			No.	ユニット名		信号外的名	
2	グループ2	タガ名登録			1	温度·電圧	•	温度1 👤	
3	ガループ3	「内川名登録」		1	2	│温度·電圧	-	パルスカウント1 💽	
4	ブループ <u>4</u>	カガタ恋録			3	振動	-	振動1 👤	
5	570 94 1711-35	- クワイロ豆が			4			パルスカウント1 -	
	0,0-00				5	設定なし 認定なし			
	ОК	キャンヤル			0	I BRIEGO			
								閉じる	
				-					

6. 温度・電圧ユニットの設定

登録されている各MT1200の入力条件・収録条件・監視条件を設定します。 メニューの[設定]→[入力設定]を選択すると下の画面が表示されます。

usu設定	設定変更するユニットを選択します。	X
ユニット名称 温度・電圧		
入力設定 ユーザースケール設定 警報設定 収録設定		
信号ダダ名 入力ON/OFF 入力モード	レンジ等 バーンアウト 内部温度補償 データ形式	
温度1 ON 🖌 熱電対 🖌	K V ON V ON V 瞬時値 V	
接点2 ON ▼ 無電圧接点 ▼	K ON ON S 瞬時値 S	
電圧3 ON ▼ 電圧 ▼	K V ON V ON V 瞬時値 V	
信号ダダ名 入力ON/OFF デジタルフィルタ	入力モード 入力極性 デー妍形式	
パルスカウント1 ON V OFF V	パルスカウント 🗸 立ち上り 🗸 積算値 🖌	
ON時間計測2 ON ▼ OFF ▼	ON時間計測 ▼ 立ち上り ▼ 積算値 ▼	
イペンN時刻記録3 ON ▼ OFF ▼	「イペント時刻記録 ▼ 立ち上り ▼ 瞬時値 ▼	
, _, _		
		キャンセル

6-1. 収録・監視信号タグの選択

「□ このユニットは待機させる。」に、チェックを入れることにより、該当ユニットを監視対象からに除くことができます。 [入力ON/OFF]により監視を行う信号タグを選択します。

6-2.アナログ入力設定

温度・電圧ユニットのアナログ入力端子は、3入力です。 温度(熱電対K, E, J, T、サーミスタ温度計)、電圧(DC±20V)、電流(4~20mA)、無電圧接点の入力モードを備えて います。使用するセンサに合わせて、入力モードを選択して下さい。

1)温度入力モード

各温度センサの測定範囲は次のようになっています。(分解能は0.1℃です。)

	Kタイプ	-200~+1370°C
熱電対	Eタイプ	-200~+1000°C
	Jタイプ	-200~+1200°C
	Tタイプ	−200~ +400°C
サーミスタ温度計		−20 ~ +90°C

・熱電対, サーミスタ温度計の入力モードでは、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、最小値または収録時の瞬時値からデータ形式(「6-5. データ形式の選択」を参照。)を選択できます。

・熱電対の場合は、バーンアウトチェックの有無、内部基準温度補償の有無、ユーザスケールが使用できます。 ・サーミスタ温度計の場合は、ユーザスケールが使用できます。

リーミスタ温度計の場合は、エーリスワールが使用できより。

【注意】サーミスタ温度計は、必ず、専用のオプション品(MT12-401)をご使用下さい。

2) DC電圧モード

・DC電圧測定範囲は、±20V/FSとなります。分解能は±1mVです。

・DC電圧モードでは、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、最小値または収録時の瞬時値からデータ形式(「6-5. データ形式の選択」を参照。)を選択できます。
 ・DC電圧モードの場合は、ユーザスケールが使用できます。

3) 4~20mA電流モード

・内蔵シャント抵抗(50Ωにより、電圧に変換し測定します。分解能は20μAです。

この時は、MT1200本体の表示パネルの[CURR. R]スイッチを信号タグ毎に[ON]に設定します。

・外部にシャント抵抗を用意される場合は、表示パネルの[CURR. R]スイッチを信号タグ毎に[OFF]に設定します。 ・外部シャント抵抗値が内蔵抵抗と変わる場合は、ユーザスケールを用いて補正して下さい。。

・4~20mA電流モードでは、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、最小値または収録時の瞬時値からデ ータ形式(「6-5. データ形式の選択」を参照。)を選択できます。

・4~20mA電流モードの場合は、ユーザスケールが使用できます。

4) 無電圧接点入力モード

・接点検出電流0.5mAを接点に供給し、ON時の抵抗が2kΩ以下の時ON(クローズ)としています。 5kΩ以上の時はOFF(オープン)となります。

・無電圧接点入力モードでは、収録時の瞬時値を収録します。

6-3. パルス入力設定

・温度・電圧ユニットのパルス入力端子は、3入力です。

・パルス入力モードには、パルス波形、パルスカウント、ON時間計測、イベント時刻記録モードがあります。 ・パルス入力時には、チャタリングによる誤動作防止のため、デジタルフィルタが設定できます。

信号タグ名	入力ON/OFF デジタルフィルタ	入力モード	入力極性	データ形式
パルスカウント1	ON V OFF V	איללגעא 🔽	立ち上り	▼ 積算値 ▼
ON時間計測2	ON V OFF V	ON時間計測 ▼	立ち上り	▼ 積算値 ▼
4、沙時刻記録3	ON V OFF V	イベント時刻記録	立ち上り	▼ 瞬時値 ▼

1) パルス波形モード

デジタル値としてHIGHレベル/LOWレベルを、収録時間毎の瞬時値を"1"(H)、"O"(L)で収録します。 ・警報条件は、現在の状態から立上り、立下り、立上り/立下りの状態に変化した場合に成立します。

(「立上り/立下り」は、初期状態がHorLで決まっていない場合に使用します。)

・パルスカウントモードをご使用に場合は、デジタルフィルタ、入力条件が設定できます。



2) パルスカウントモード

パルスカウントモードでは、収録間隔内に入力されたパルス数をカウントし収録します。

・MT1200では、最大積算数32767カウント、積算速度12000パルス/分までカウントできます。

・パルスカウントモードでは、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、最小値または収録時の瞬時値、積算値 からデータ形式(「6-5. データ形式の選択」を参照。)を選択できます。

・パルスカウントモードをご使用の場合は、デジタルフィルタ、ユーザスケールが使用できます。

2)-1 パルスカウントモードに於けるサンプル間隔と収録間隔



2)-2 パルスカウントモードで、データ形式を積算にした場合の積算方法 パルスカウントモードでデータ形式を積算にした場合、監視PC上で収録データ(収録時間間隔毎のパルスカウント 値)を積算します。

【注意】この場合、監視PCでの表示更新時間毎の警報判定となりますので、表示更新時間の 設定時間が長い場合、他のモードに比べアラームの発生が遅れます。

2)-3 積算リセットについて

ー定時間毎に積算された値をリセットし、改めて積算する為の積算リセット間隔を設定します。(「10. 収録設定」で 設定します。)

積算リセット間隔: 1, 2, 5, 10, 15, 20, 30min, 1, 2, 3, 6, 12h, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14, 15, 20, 21day, 1month



3)ON時間計測モード

ON時間計測モードでは、入力されるデジタル信号のHレベルになっている時間を1秒単位で計測し収録します。 尚、1秒未満の信号については、切捨て処理を行います。

・ON時間計測モードでは、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、最小値または収録時の瞬時値、 積算値を選択できます。

・ON時間計測モードをご使用に場合は、デジタルフィルタ、ユーザスケールが使用できます。



【注意】

このON時間計測モードにつきましては、サンプル間隔と収録間隔の時間設定を同じに(サンプル間隔= 収録間隔)する事をお勧めいたします。

その時、データ形式は瞬時値、積算値に設定してください。

4) イベント時刻記録モード

イベント時刻記録モードでは入力されるデジタル信号のHレベル←→Lレベルの状態変化が発生した時の時刻を記録 します。

・イベント入力条件として「立上り」または「立下り」、「立上り/立下り」を指定できます。

・収録時の瞬時値でイベントの有無を判断します。

・イベント時刻記録モードをご使用に場合は、デジタルフィルタが設定できます。



●印の時刻がイベント発生として記録されます。

6-4. デジタルフィルタについて

パルス入力時にはデジタルフィルタが設定できます。 立ち下がり、立ち上がり時に以下の時間遅らせてレベル判定を行い、チャタリングフィルタとしてご使用いただけます。 OFF(2.5ms)、10ms、30msより選択できます。



6-5. データ形式の選択

収録されるデータは、瞬時値、最大値、最小値、平均値、積算値の中から選択できます。

- 1) 瞬時値、平均値、最大値、最小値の関係
 - ・サンプル間隔よりも収録間隔を長く取ることにより、収録間隔内の複数データの平均値、最大値、最小値を求め収録デ ータとします。瞬時値は収録間隔時のデータを収録データとします。
 - ・下図は収録間隔をサンプル間隔の3倍(20分に対して60分など)に設定した例です。



確定されたデータは、MT1200のリングバッファに格納され収録データとなります。

2) 積算値について

・積算は、パルス入力モードがパルスカウントとON時間計測の場合に選択可能となります。

・積算値の警報判定は、監視PCに収録されたデータを積算し警報判定する為、特にユニット数が多い場合は、警報判定 が遅くなります。積算値で警報判定を行う場合は、表示更新時間を短く設定する必要があります。

6-6. ユーザスケール設定

測定されたデータに対しスケーリング(物理換算)を行うことが可能です。 メニューの[設定]→[ユーザースケール設定]を選択すると下の画面が表示されます。

				設定変更す	まるニ	ュニットを選	選択します	0		
設定										
ユニット名称 温度 入力設定 フーザースケー		収録設定								
	3 + 7. 4	75.05.87 3	+ A ATA I	3 +1444) 221 221		
18万90名	八川モート . 熱電対		-200.000	1370.000	E A	-200.000	1370.000	甲凹		
接点2	無電圧接点		200.000	1010.000	9	200.000	1010.000			
電圧3	電圧		-20.000	20.000	$\left(\frac{\lambda}{\tau}\right)$	-20.000	20.000	V		
パルスカウント1	パルスカウント		0.000	32767.000		0.000 (4)	32767.000			
ON時間計測2	ON時間計測		0.000	32767.000	$\left(\frac{\lambda}{2}\right)$	0.000	32767.000			
イベント時刻記録3	イベント時刻記録									
				ユニット設定コピ	2-	ユニット設定	全ユ:	リト設定	キャンセル	

・スケーリング機能(数値、単位の換算機能)を使用する場合はスケーリングにチェックを入れます。 ・入力MINと入力MAXに換算前の値を入力し、出力MINと出力MAXに換算後の値を入力します。

例)パルスカウントの300カウントの時を0mm、3000カウントの時、300mmと設定する場合は次に様になります。



※無電圧接点、パルス波形、イベント時刻記録の各入力モード時にはユーザスケールは設定できません。

7. 回転体振動ユニットの設定

登録されている各MT1200の入力条件・収録条件・監視条件を設定します。 メニューの[設定]→[入力設定]を選択すると下の画面が表示されます。

№98歳定 設定変更するユニットを選択します。
ユニット名称 振動 入力設定 ユーザースケール設定 警報設定 収録設定
信号ダ泊 入力ON/OFF 入力モード センサー感度補正 デー研究
ベアリング1 ON C ベアリング 1.000 瞬時値 C
速度2 ON ▼ 速度 ▼ 1.000 瞬時値 ▼
変位3 ON ▼ 変位 ▼ 1.000 瞬時値 ▼
信号ダダ名 入力ON/OFF デジタルフィルタ 入力モード 入力種性 デー研究式
ON#希腊計測2 ON J OFF J ON#希腊計測 J 立ち上り J 積算値 J
イペツN時刻記録3 ON ▼ OFF ▼ イペツN時刻記録 ▼ 立ち上り ▼ 瞬時値 ▼
ユニット設定コピー ユニット設定 全ユニット設定 キャンセル

7-1. 収録・監視信号タグの選択

「口 このユニットは待機させる。」に、チェックを入れることにより、該当ユニットを監視対象からに除くことができます。 [入力ON/OFF]により監視を行う信号タグを選択します。

7-2.アナログ入力設定

回転体振動監視ユニットのアナログ入力は振動シビアリティ測定モード(加速度、速度、変位)、ベアリングモードの4 つの入力モード設定が可能です。

1) 振動シビアリティ測定(加速度、速度、変位)モード

測定した加速度を加速度(m/s²)のまま、あるいは速度(mm/s)または変位(mm)に積分し、更に真の実効値変換し た値を監視することにより回転する機械の異常振動を発見することができます。(JIS B 0907-1989) ・データ形式、センサ感度、ユーザスケール機能が設定できます。

【注意】加速度の測定ができない場合は、他モードでも使用できません。

2) ベアリングモード

MT1200側で2kHz~15kHzの加速度入力信号に重畳したDC~1kHzの信号をエンベローブ検波し、真の実効値変換を施して測定します。

【注意】ベアリングモードはIMV株式会社殿の定めた測定条件により測定しております。

3) 測定可能範囲

測定範囲はセンサの電圧感度により異なります。

デフォルトとしてセンサの電圧感度が1mV/m/s²のアンプ内蔵型加速度センサに対応させています。 以下に、代表値としてセンサの電圧感度値の違いによる測定範囲を表に表します。

ヤンサの雷圧感度	入力範囲					
	加速度	速度	変位			
$(mV/m/s^2)$	(m/s^{2})	(mm/s)	(mm)			
1	200	300	3			
2	100	150	1.5			
5	4 0	60	0.6			
10	20	30	0.3			

4) 補正(センサ感度補正)について

前項の表は、センサの電圧感度が1,2,5,10mV/m/s²などの代表値で測定範囲を表しています。 通常、この代表値で測定することが可能ですが、更に正確な測定精度を要求する場合は、各々のセンサに添付されて いる成績書に記載されたセンサの電圧感度の値と代表値からのずれを補正する必要があります。 成績書に記載された電圧感度値を設定画面のセンサ感度補正値として設定することで、感度補正が行われます。 補正可能なセンサの電圧感度は、0.9mV/m/s² ~ 11mV/m/s² です。(初期値は1mV/m/s²)



7-3. パルス入力設定

パルス入力設定は、「6-3 パルス入力設定」と共通です。

7-4. ユーザスケール設定

ユーザスケール設定は、「6-6 ユーザスケール設定」と共通です。

8. 接点ユニットの設定

登録されている各MT1200の入力条件・収録条件・監視条件を設定します。

メニューの[設定]→[入力設定]を選択すると下の画面が表示されます。

		設定変更	するユニッ	トを選択します。	
<mark>₩SU</mark> 設定					X
ユニット名称 二	2_ット1 ▼ ル設定 警報設定 収録設定				
- 「 このユニットは待機させ	a.				
信号如名	入力ON/OFF デジタルフィルタ	入力モード	入力極性	データ形式	
接点1	ON V				
接点2	ON V				
接点3	ON V				
接点4	ON V				
接点5	ON V				
接点6	ON V				
接点7	ON V				
接点8	ON V				
接点9	ON V				
接点10	ON V				
パルス1	ON V OFF V	パルスカウント 💽	立ち上り	▲ 積算値 ▼	
パルス2	ON V OFF V	ON時間計測 ▼	立ち上り	▶ 瞬時値 ▶	
			œor-	고드ット設定 全고드ット設定	ミニー キャンセル

8-1. 収録・監視信号タグの選択

「□ このユニットは待機させる。」に、チェックを入れることにより、該当ユニットを監視対象からに除くことができます。 [入力ON/OFF]により監視を行う信号タグを選択します。

8-2. 無電圧接点入力

・検出電流2mAを接点に供給し、ON時の抵抗が500 Ω以下のときONとしています。 100k Ω以上の時はOFFとなります。接点OFF時の端子間電圧は13V以下です。 ・無電圧接点モードでは、収録時の瞬時値を収録します。

8-3. パルス入力設定

パルス入力設定は、「6-3 パルス入力設定」と共通です。 接点ユニットの場合、パルス入力は2入力です。

8-4. ユーザスケール設定

ユーザスケール設定は、「6-6 ユーザスケール設定」と共通です。

9. パルスユニットの設定

登録されている各MT1200の入力条件・収録条件・監視条件を設定します。 メニューの[設定]→[入力設定]を選択すると下の画面が表示されます。

	設定変更するユニットを選択します。
(89)設定 ユニット名称 ユニット1 マ 入力設定 ユーザースケール設定 警報設定 収録設定 「このユニットは待機させる。	
信号ダヴ名 入力ON/OFF デジタルフィルタ 入ナ パルス1 ON マ 10ms マ パルス3	Dモード 入力極性 データ形式 ロウント ▼ 立ち上り ▼ 積算値 ▼
パルス2 ON J 30ms J ON時	計測 ▼ 立ち上り ▼ 瞬時値 ▼
パルス3 ON J 30ms J イベン時	家記録 ▼ 立ち上り ▼ 瞬時値 ▼
	ユニット設定コピー ユニット設定 全ユニット設定 キャンセル

9-1. 収録・監視信号タグの選択

・「待機させる」指定により該当ユニットの全信号タグを一時的に監視対象からに除くことができます。 ・[入力ON/OFF]により収録・監視を行う信号タグを選択します。

9-2. パルス入力設定

パルス入力設定は、「6-3 パルス入力設定」と共通です。 パルスユニットでは3系統のパルス入力が可能です。

9-3. ユーザスケール設定

ユーザスケール設定は、「6-6 ユーザスケール設定」と共通です。

10. 収録設定

登録されている各MT1200の入力条件・収録条件・監視条件を設定します。 メニューの[設定]→[収録設定]を選択すると下の画面が表示されます。

	設定変更するユニットを選択します。	
wsv設定		×
ユニット名称 温度・電圧 入力設定 ユーザースケール設定 警報設定 収録設定		
サンプリング 5s 収録間隔 5s 積算リセット間隔 1day マ		
収録する 区		
	ユニット設定コピー ユニット設定 全ユニ	シト設定 キャンセル

10-1. サンプル間隔、収録間隔の設定

MT1200では、「各種現象を測定し判定を行う間隔(サンプル間隔)」と「測定されたデータを残す間隔(収録間隔)」 を個別に設定します。

1) サンプル間隔の設定

サンプル間隔は、データを監視(サンプル)する時間間隔です。 MT1200では、このサンプル間隔でアラーム判定を行っています。 ・サンプル間隔(監視周期)は次の中から選択します。 [1, 2, 5, 10, 20, 30s, 1, 2, 5, 10, 20, 30min, 1h]

- ※回転体振動ユニットは2s~1hまでの設定となります。
- 2) 収録間隔の設定

収録間隔は、トレンドデータとして監視PCに収録する時間間隔です。

・収録間隔は、次の中から選択します。但し、サンプル間隔≦収録間隔となり、収録間隔はサンプル間隔(監視周期)の整数倍の値のみ設定できます。

[1, 2, 5, 10, 15, 20, 30s, 1, 2, 5, 10, 15, 20, 30min, 1, 2, 3, 6, 12, 24h]

※回転体振動ユニットは2s~24hまでの設定となります。

3) サンプル間隔と収録間隔の関係

サンプル間隔	収録間隔
1s	サンプル間隔設定~ 6h
2s	サンプル間隔設定~12h
5s~1h	サンプル間隔設定~24h

*サンプル間隔≦収録間隔≦サンプル間隔×32767(24h以下)

10-2. 積算リセット間隔

積算を選択した場合、積算リセット間隔を次の中から選択し設定します。

1, 2, 5, 10, 15, 20, 30min, 1, 2, 3, 6, 12h, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14, 15, 20, 21day, 1month

10-3. 収録の禁止

「収録する 口」にチェックがない場合、このユニットはデータを収録せず監視のみを行ない、異常値が検出されると 監視PCへ警報を通知します。

よって、このユニットを監視画面で詳細表示、トレンド表示を行ってもデータは表示されません。

サンブル間隔	1s 🗸
収録間隔	5s 🖵
積算リセット間隔	1h 🖵
収録する	

【注意】データ形式として積算値を指定している信号タグがある場合は、必ず「収録する」となり設定変更できません。

10-4. データ収録と表示更新時間

1) データの読出方法について

監視用PCは、各MT1200に順次、接続し、リングバッファに格納されているデータを読み出します。読み出されるデー タは、前回の読み出し後のデータから現在まで保存したデータをまとめて読み出します。



グループ表示の例

2) 通信回線を2回線使用することによる利点

データ読み出しを順次行う際のユニットとユニットの間に警報受信用の時間を設けることにより、1つの電話回線でデ ータ取得と警報受信とを可能にしています。更に、通常通信用と警報受信用の2つ電話回線を設けることにより、効率よ く警報と収録を処理することが可能です。

【参考】通常通信用と警報受信用の2つ電話回線を設けることにより以下の利点があります。 ・警報を、効率よく警報受信できます。 ・表示更新時間が短くなります。

- 【注意】本システムでは、通信障害により接続までの時間が長くなったり、リトライ(再ダイヤル)が発生したりする可能性があ ります。1ユニットに対しリトライを含め3回の接続を試みても接続できない場合は、そのユニットをスキップします。デ ータが上書きされない限り、以降の読み出しで接続できれば、データは連続して収録できます。万一、上書きされた場 合はデータ欠測として記録しシステムとしては監視を継続します。
- 3) ユニット数による表示更新時間の制限について

接続台数が多くなると全ユニットのデータを順次、監視PCが読み出す前に新しいデータがメモリに上書きされる恐れ があります。それを防止する為にユニット数や通信ポート数により、最速収録時間や最速表示更新時間を制限します。 「表示更新時間の設定」は「監視開始」を押したときに以下のダイアログボックスが表示されます。

₩SV監視開始時間の指定	<u> </u>
監視開始時刻設定 開始時 開始分 分 9 分 0	表示更新時間 通信間隔(分) 分 5
OK 今ず(実行	τ <u></u> ++ντμ

4) ユニット数によるサンプル間隔、収録時間、表示更新時間の関係について

ユニット数	サンプル間隔		収金	剥酮隔			表示更新時間
	1s	1 :	s	~	6	h	
1~2	2s	2	s	~	12	h	
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	1	s	~	6	h	
3~5	2s	2	s	~	12	h	5 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	2	s	~	6	h	
6~10	2s	2	s	~	12	h	10 min ~ 収録間隔×360
	5s∼1h	5	s	~	24	h	
	1s	5	s	~	6	h	
11 ~ 16	2s	5	s	~	12	h	15 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	5	s	~	6	h	
17 ~ 22	2s	5	s	~	12	h	20 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	5	s	~	6	h	_
23 ~ 33	2s	5	s	~	12	h	30 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	10	s	~	6	h	_
34 ~ 51	2s	10	s	~	12	h	45 min ~ 収録間隔×360
	5s	10	s	~	24	h	_
	10s~1h	10	s	~	24	h	
	1s	10	s	~	6	h	
52 ~ 70	2s	10	s	~	12	h	60 min ~ 収録間隔×360
	5s	10	s	~	24	h	_
	10s~1h	10	s	~	24	h	
	1s	15	s	~	6	h	_
	2s	20	s	~	12	h	
71 ~ 100	5s	15	s	~	24	h	90 min ~ 収録間隔×360
	10s	20	s	~	24	h	_
	15s~1h	15	s	~	24	h	

収録間隔と表示更新時間(1通信ポート時)

注)表示更新時間は24時間が最大となります。 表示更新時間は収録時間より小さくは設定できません。

【注意】本システムでは、通信状態によりリトライ(再ダイヤル)の発生などのため、表示更新時間が遅れることがあります。 最速の表示更新時間は、通信状態が良い状態での期待値となっています。 表示更新間隔(=データ読み出し間隔)を最速時間よりも長く設定できる場合は、余裕を持って設定してください。

		-20/11			1/~1		1 847
ユニット数	サンプル間隔		収	録間隔			表示更新時間
	1s	1	s	~	6	h	
1	2s	2	s	~	12	h	1 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	1	s	~	6	h	
2	2s	2	s	~	12	h	2 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	1	s	~	6	h	
3~4	2s	2	s	~	12	h	3 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	1	s	~	6	h	
5 ~ 7	2s	2	s	~	12	h	5 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	2	s	~	6	h	
8~14	2s	2	s	~	12	h	10 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	5	s	~	6	h	
15 ~ 23	2s	10	s	~	12	h	15 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	5	s	~	6	h	
24 ~ 30	2s	10	s	~	12	h	20 min ~ 収録間隔×360
	5s ∼ 1h	5	s	~	24	h	
	1s	5	s	~	6	h	
31 ~ 48	2s	10	s	~	12	h	30 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	10	s	~	6	h	
49 ~ 75	2s	10	s	~	12	h	45 min ~ 収録間隔×360
	5s	10	s	~	24	h	
	10s~1h	10	s	~	24	h	
	1s	10	s	~	6	h	
76 ~ 100	2s	10	s	~	12	h	60 min ~ 収録間隔×360
	5s	10	s	~	24	h	
	10s~1h	10	s	~	24	h	

収録間隔と表示更新時間(2通信ポート時)

注)表示更新時間は24時間が最大となります。

表示更新時間は収録時間より小さくは設定できません。

【注意】本システムでは、通信状態によりリトライ(再ダイヤル)の発生などのため、表示更新時間が遅れることがあります。 最速の表示更新時間は、通信状態が良い状態での期待値となっています。 表示更新間隔(=データ読み出し間隔)を最速時間よりも長く設定できる場合は、余裕を持って設定してください。 MT1200の入力各信号タグに異常値が検出された場合、監視PCへ警報を発することが可能です。 警報を受けた監視PCでは、警報発生メッセージ表示(ポップアップ表示)、Eメール送信等によりお客様が異常を知る ことが可能です。一方MT1200本体では、リレーを動作させることができる為、パトライトの点灯、装置の停止等にご 使用して頂けます。(MT1200アラームアウトのリレー開閉容量は30V、0. 1Amaxです。) [設定]→[警報設定]を選択すると下の画面が表示されます。

usv設定	設定変更するユニットを選	髬択します 。	X
ユニット名称 温度・電圧 ✓ 入力設定 ユーザースケール設定 警報設定 収録	設定		1
信号权为名 警報ON/OFF	下限 上限 単位	サンブル数 許容時間	アラームアウト
温度1 ON 💽 👌	2.000 () 30.000 C	<u>)</u> 0 Os	▶ メール送信 ▶ リレー動作
接点2 ON I	ON 🔽	() 0 0s	□ メール送信 □ リレー動作
電圧3 OFF I	-20.000 () 20.000 V		□ メール送信 □ リレー動作
パルスカウント1 ON -	() 1000 mm	() 0 0s	▼ メール送信 ▼ リレー動作
ON時間計測2 ON J	() 2 h	() 0 0s	▼ メール送信 ▼ リレー動作
イベント時刻記録3 OFF _ 立ち	5上がり 💽	() 0 0s	□ メール送信 □□ リレー動作
		ユニット設定 全	ミュニット設定 キャンセル

温度・電圧ユニットの場合、設定画面

11-1. 警報条件の設定

入力設定の[入力ON/OFF]でONに指定した信号タグに対し警報設定が行えます

1) 警報ON/OFFの選択

監視している信号タグに対し警報の有無が指定できます。

[OFF] :信号タグの監視(警報出力)を行いません。トレンドデータの収録は行います。

[ON] :トレンドデータの収録と共に信号タグの監視を行います。

[ON(AND)]:上記ONと同様ですが同一ユニット内の複数信号タグのANDで成立します。

2) アナログ入力時の警報条件(上限値、下限値)の設定

入力された信号が上限値または下限値を越え、その状態が許容時間以上持続した時、警報条件が成立します。 許容時間については「5)許容時間の設定」をご覧下さい。

アラーム確定ポイントを4ポイントに設定した場合



- 3) 無電圧接点入力モードの警報条件(上限値、下限値)の設定 無電圧接点入力モードの警報条件は上限値、下限値の設定ではなくON/OFFでの設定となります 警報条件ONは、無電圧接点(リレー)閉、警報条件OFFは無電圧接点(リレー)開を意味します。
- 4) パルス入力の警報条件(上限値、下限値)の設定

パルス入力モードには、パルス波形、パルスカウント、ON時間測定、イベント時刻記録モードの4タイプがあり、それ ぞれにより警報条件の考え方が異なります。

パルスカウント1	ON	•	$\left(\frac{\lambda}{2}\right)$	32767	() T	0	Os	┏ メール送信	🔽 リレー動作
ON時間計測2	ON	•	<u>/</u>	32767) T	0	0s	┏ メール送信	▶ リレー動作
イベント時刻記録3	ON		-			0	Os	┏ メール送信	□ リレー動作

4)-1 パルス波形モードの警報条件(上限値、下限値)の設定

パルス波形モードの時は、入力条件(立上り、立下り、立上り/立下り)成立後、その状態が許容時間以上持続した時、 警報条件が成立します。



4) -2 パルスカウントモードの警報条件(上限値、下限値)の設定 パルスカウントモードの時は、収録間隔毎のパルス数が上限値または下限値を越え、その状態が許容時間以上持続 した時、警報条件が成立します。但し、パルスカウントモードの積算モードでは、下限値の設定はありません。

- 4) -3 ON時間計測モードの警報条件(上限値、下限値)の設定 ON時間計測モードの時は、収録間隔毎のON時間が上限値または下限値を越え、その状態が許容時間以上持続した時、警報条件が成立します。 ON時間計測モードの積算モードでは、下限値の設定はありません。
- 4) -4 イベント時刻記録モードの警報条件(上限値、下限値)の設定 イベント時刻記録モードの時には、設定できる警報条件はありません。

サンプル数に設定可能な値は0~3600です。

5)許容時間の設定 許容時間以上、上限値または下限値を継続して越えた時、警報条件が成立します。 許容時間の設定はサンプル数を入力します。サンプル間隔×サンプル数が許容時間となります。

【注意】 警報レベルの設定値によっては、入力に何も接続していない状態でも入力開放の為、電圧が不定となり警報条件が成立することがあります。メンテナンス時には警報をOFFにするか監視を停止して下さい。

【注意】 積算モード以外では、警報判定はMT1200で行い警報条件成立で、監視PCに発報します。

11-2. 警報出力の設定

警報条件が成立した時、MT1200は監視PCに警報情報を送信(発報)します。 この時、設定によりMT1200のリレーを動作させたり、警報メールを送信することができます。

1) 警報リレー動作設定

警報条件が成立した時、MT1200のリレー出力を "動作させる" / "動作しない" を設定できます。

MT1200では、半導体リレーを使用しており、30V、0. 1Aまでのリレーを開閉することができます。 N.O:ノーマリオープン端子(a接点)、N.C:ノーマリクローズ端子(b接点)、COM:コモン端子端子接続位置を変えることで使い方が変わります。

N.O 端子: ノーマリオープン(正常時オープン、警報時クローズ) N.C 端子: ノーマリクローズ(正常時クローズ、警報時オープン) 3 3 N. O INPUT-PULSE IN 正常時オープン N.Ö Ð٠ сом 30V PK MAX COM N.C $\Theta =$ 30Y PK MAX ≟ CATII ALARM OUT 30V/0.1A MAX 正常時クローズ N. C MT12-101 TMP.UNIT

2) 警報メール送信設定

警報発生時に警報先に警報メールを送信する/しないを設定できます。 詳細は「11-3. 警報メール設定」を参照して下さい。

11-3. 警報メール設定

監視PCから他のPCや携帯電話、PHS端末等に警報メールを送信することが可能です。 メニューの[システム]→[警報メール設定]を選択すると下の画面が表示されます。

【注意】 警報メール機能は、 監視PCでEメールが送信可能なイントラネットやインターネットに接続できる環境が
整っていることを前提としています。また、プロバイダの混雑状況によりEメールが遅延・不達が発生
する場合があります。

送信去設定		
送信元7ドレス saneゆへへ highbene in		■ 112/12/18
	ダイヤルアップ名	▲ 送信生ままで1917 00000分decompanyin
SMTPサーパー 🛆 Δ biglobe.ne.jp		
SMTPポート番号 () 25	電話番号	
	ダイアルリトライ回数 🗐 3	
POP#-//-		警報先送信2
POPホ"番号		▶ 警報後生時にメール送信
7肋가名		送信先メールアドレス △△△△@docomone.jp
ハ*スワート*		送信シャセージ 警報が発生しました。注意してくださ
		□警報先送信3
		▶ 警報発生時にメール送信
		1218707-W/FVX
		151日メッセーン 音報9年1日:

1)警報先アドレス設定

警報メール送信先のEメール・アドレスは、3ヶ所で設定できます。

2) 警報メッセージ設定

メール先それぞれに対して定型の警報メッセージを入力できます。 また、送信先毎に警報発生時にメールを送信/送信しない を設定することができます。

3)メール送信内容

警報メールでは次の項目を送信します。

- ① 警報メッセージ
 ② ユニット名称
- ③ 信号タグ名称
- ④ 警報値(収録データ)
- ⑤ 警報発生日時

ユニット1	
接点 1	
0	
2002/07/02 11:18:13	

警報が発生しました。

警報メール出力例

 送信元アドレス
 Eane(個△△biglobene.jp)

 SMTPサーパー
 △△biglobene.jp)

 SMTPボート番号
 25

 POPサーパー
 △△biglobene.jp)

 POPホート番号
 110

 アカウント名
 Eanei

 パワート*

 POPbeforeSMTP時の設定例

svwSvメール設定画面

רים אבא מי רים POP Before SMTP 🖵

送信元設定一

4)対応プロトコル

送信プロトコルとして「SMTP」と「POPbeforeSMTP」に対応しています。

SMTP使用時は、送信元アドレス, SMTPサーバーアドレス, SMTPポート番号(初期値25)を設定してください。 POPbeforeSMTP使用時は、SMTP設定に加えてPOPサーバーアドレス, POPポート番号(初期値110), アカウン ト名, パスワードを設定してください。

5) ダイヤルアップ接続

ダイヤルアップ接続使用時には、あらかじめ「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤル アップ接続」で設定された接続のダイヤルアップ名が表示されます。複数の設定がある場合は選択できます。 ダイヤルアップ名, ユーザID, パスワード, アクセスポイント電話番号とダイヤルアップ時のリトライ回数(初期値3)を 設定してください。

11-4. 警報履歴

1)警報履歴表示

現在の監視体制で発生した全ユニットの警報情報を最大100件まで保存することが可能です。 メニューの[表示]→[警報履歴表示]を選択すると下の画面が表示されます。

No ユニット名	信号タグ名	状態	警報値	発生日時
1 温度·電圧	温度1	警報	30.1 °C	2002/07/03 20:04
2				
3				
5				
6				
7				
8				
9				
11				
12				
13				
14				
15				
17				
18				
19				
20				

2) 警報履歴保存数

警報履歴の最大保存数は100件です。最大保存数を超えた場合は一番古い記録が削除されます。

3) 警報履歴記録内容

警報が発報されると、次の項目が記録され、警報履歴表示時に表示されます。

- ① ユニット名
- 信号タグ名
- ③ 状態
- ④ 警報値(発報データ)
- ⑤ 発生日時

警報解除 が押された場合にも解除時刻が記録されます。「12-4. 警報表示動作」を参照下さい。

警報履歴	表示				
No	ユニット名	信号匆匆名	状態	警報値	発生日時 ,
1	ユニット93	接点	解除	-	2002/06/21 18:53
2	ユニット93	温度	解除		2002/06/21 18:53
3	ユニット93	接点	警報	1	2002/06/21 18:49
4] ユニット93	温度	警報	33.1 °C	2002/06/21 18:49

4) データ欠測情報記録

通信異常、電源断等何らかの理由でデータが欠測(抜け落ち)した場合は、警報履歴の状態に「データ欠測」、「データ 再開」を記録します。

12. 監視

12-1. 監視開始

usuワイヤレス センシング ビューア				X
ファイル 機器登録 設定 表示 システム ヘル 02/07/09 14:32:11	7	_	_	監視開始
 ◆ 温度・電圧 ↓ 温度1 接点2 電圧3 パルスカウント1 ON時間計測2 イヘン時刻記録3 	ALARM OFF 25.1 °C 0 -0.002 -0.002 V 0 -0.002 0 -0.002 0 -0.002	No. ユニット名 状態 DO 1 1 温度・電圧 DO A1 3 4 00 A1 5 6 0 A1 6 7 0 A1 9 0 10 11 12 13 0 13	2 3 4 5 6 7 1 A2 A3 P1 P2 P3 1 A3 P1 P2 P3 P3 1 A3 P1 P2 P3 P3 1 A3 P1 P2 P3 P3 1 A3 P1 P3 P3 <	
◆ 振動 振動1 速度2 パアリング3 パロング3	USU監視開始時間の指定 監視開始時刻設定 開始時 開始時 9 0	表示更新時間 通信間隔(分) 5 5 集行		
○N時間間†測2 (ハ*)ト時刻記記録3		30 36 36 37 38 39 40 41 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50		

| 監視視開始 | をクリックすると以下の画面が表示されます。

「表示更新時間」を設定して下さい。

「表示更新時間」の詳細については「10-4. データ収録と表示更新時間」をご覧下さい。

監視開始の方法として以下の2種類の方式があります。

(1) 開始時刻を指定して全ユニットー斉に開始する方式
 「監視開始時刻設定」の「開始時」と「開始分」を設定し OK をクリックして下さい。
 次に確認画面が表示されますのでよろしければ OK をクリックしますと監視を開始します。
 もし、設定が違っていれば キャンセル をクリックしますと最初の監視開始時刻設定に戻りますので、
 再度設定しなおしてください。

WSU	×
9時0分に通信間隔5分で監視を開始します。 よろしいですか?	
OK ++>>セル	

(2) 登録されている順番に監視を開始する方式

(今すぐ実行)をクリックして下さい。
 次に確認画面が表示されますのでよろしければ OK をクリックしますと監視を開始します。
 もし、設定が違っていれば <u>キャンセル</u>をクリックしますと最初の監視開始時刻設定に戻りますので、
 再度設定しなおしてください。

wsv		×
	今すぐ通信間隔5分で監視を開始します。 よろしいですか?	
	OK ++>セル	

【注意】監視中は、システム変更に関わる設定変更は禁止します。

【公衆契約でお使いの場合注意】 ここで設定する表示更新時間が通信周期になる為、よって通信料金を節約したい場合は、 大きな値を設定して下さい。

12-2. 監視画面

1) 監視メイン画面

定期的に各ユニットのデータを読出し、データベースに格納すると共に最新データを表示します。ユニット名称、ユニット状態表示、信号タグ状態を50台または100台一括で表示します。更に指定した2ユニット分の詳細表示を行います。(51台以上登録した場合、詳細表示エリアはポップアップ画面として表示され、監視メイン画面は100ユニット分の 全体表示エリアになります。)



2) 監視メイン画面(100ユニット分)

51台以上登録した場合、、監視メイン画面は100ユニット分の全体表示エリアになります。詳細表示はポップアップ 画面として表示することができます。



3) 詳細表示の切り換え

詳細表示は、アイコンの切り替えで"数値表示"と"バーグラフ表示"に切り替わります。





- ⑤ 測定された最新データを表示します。
- ⑥ 警報レベル(上限値は赤色ライン、下限値は水色ラインで表します。)
- ⑦ 表示範囲は、警報レベルの値により自動的に設定します。 表示範囲上部=警報レベル上限値+(警報レベル上限値×0.1) 表示範囲下部=警報レベル下限値-(警報レベル下限値×0.1)

6) "状態表示"の説明

状態表示には"ユニットの状態表示"と"各信号タグの状態表示"とがあります。



"各信号タグの状態表示"

"ユニットの状態表示"

ユニットの状態表示 : ユニットの状況により、以下の種類が表示されます。

待機中	ユニット内の全信号タグを監視対象からはずした状態、全信号タグOFFの状態
動作中	通信待ちで異常も発生していない状態
BATT	MT1200の電源電圧が低下した状態
通信中	通信中でパラメータ設定やデータ収録中の状態
通信E	通信がエラー終了した状態

各信号タグの状態表示 : 信号タグの状況により、以下の種類が表示されます。

OFF	各信号タグ毎に入力がOFFの状態
収録中	データを取得し記録する状態、警報判定は行わない状態
監視中	収録と共に判定を行い異常と判断されれば警報を発報する状態
注意	警報値の90%の値を超えた状態
	"上限値-下限値"を100%とした場合の0~10%以下、90%~100%未満が注意範囲となります。
警報	警報を受けつけた状態
解除中	収録と共に警報の解除を行い、順次、[監視中]に移行する状態

12-3. トレンド表示

1)トレンド表示(最新データの表示)

メニューの[表示]→[トレンドグラフ]を選択すると下の画面が表示されます。



- ① "グループ/ユニット指定" で選択された各信号タグのトレンドを時系列で表示します。
- ② "表示モード" により現在の"トレンド表示"、"過去のトレンド表示"、"過去+比較トレンド表示"を切り替えます。
- ③ "スケール"の指定で、スケールと波形の表示、波形のみの表示、非表示が選択できます。
- ON/OFF の2値のみの入力モードの場合は、スケールは表示しません。表示位置を変更する為のボタンが表示 されています。
- ④ 表示されるデータのスケールは、実際に入力されている物理量に変換された数値です。
- ⑤ 表示更新時間毎に更新されます。
- ⑥ スケールの最上位または最下位の数字を変更することで、表示レンジの変更が可能です。
- 上下限のアラームレベルは点線で表示されます。
- ⑧ 表示データ数は最大3600データです。
 時間軸の表示時間は 10, 30min, 1, 2, 3, 6, 12h, 1, 2, 7, 14, 31, 45day まで切換可能ですが、表示範囲は表示 データ数以内に制限されます。(例:1秒収録では1時間前までのデータを表示)
- ⑨ 信号タグ情報左の色識別表示をクリックすると波形の表示色が変更できます。
- 10 カーソルを移動し測定データの数値表示、時刻表示ができます。(1秒単位で微調可能)
 BURNOUT設定時、熱電対の入力がオープンとなるとカーソル値は"BURN"と表示され、トレンドグラフは、マイナス側に振り切れます。
- ① 整列 により波形の表示位置を均等表示できます。接点、パルス波形など ON/OFF2値表示のときに便利です。 (2度目をクリックしてももとには戻りません。)
- ⑦ データ形式を積算モードに設定した場合は、スケールの横のチェックを外すと積算表示を瞬時値表示に切り替える ことが可能です。
- ③登録されているいずれかのユニットと通信中であることを知らせる表示です。 通信中は表示動作が遅くなることがあります。

2) 過去トレンド表示(過去データの表示)



- ① 表示モードを"過去トレンド波形"にすることにより過去のデータが表示することができます。
- ② 年・月・日・時・分・秒を指定することにより過去のデータを検索できます。
- ③ "表示時間"の両脇の
 図 ご表示時間分スクロールできます。
 ご表示時間の半分だけスクロールできます。
- 3)過去+比較トレンド表示

表示モードを過去+比較に変更することにより過去トレンド波形を2つ重ね合わせ表示することができます。 過去波形は実線、比較波形は1点差線で表示されます。



12-4. 詳細一覧表示

ユニット名、信号タグ名、入力 ON/OFF、警報 ON/OFF、入力モード、データ形式、サンプル間隔、収録間隔、警報下限 値、警報上限値、最新データ、状態表示を行います。

メニューの[表示]→[詳細一覧表示]を選択すると下の画面が表示されます。

<mark>wsv</mark> 言羊糸[➡覧表示												×
Ma		75-B-68/5	1+	the ±P	1.4.7.1		사고 안 되면도		丁四/主	1.28/#		1.046 ± = 1	
		15599名		普報	AJIE-F	テータ形式	サンノル間隔	收标间隔	F PIK1世		歳新ナータ	状態表示	
	温度・電圧	「熱電対」	ON	ON	熱電対	瞬時他	15	bs	0.0°C	30.0°C	26.4°C	監視中	
2	温度·電圧	無電圧接点2	ON	ON	無電圧接点	瞬時値	1s	5s		ON	0	監視中	
3	温度·電圧	電圧3	ON	ON	電圧	瞬時値	1s	5s	-20.000V	20.000V	0.000V	監視中	
4	温度·電圧	パルスカウント1	ON	ON	パルスカウント	積算値	1s	5s	-1	32767	0	監視中	
5	温度·電圧	ON時間計測2	ON	ON	パルス波形	瞬時値	1s	5s		立上り	0	監視中	
6	温度·電圧	イベント時刻記録3	ON	OFF	パルス波形	瞬時値	1s	5s		立上り	0	収録中	
7	振動	速度1	ON	OFF	加速度	瞬時値	2s	10s	-50.0m/s2	200.0m/s2	0.0m/s2	収録中	
8	振動	変位2	ON	OFF	加速度	瞬時値	2s	10s	-50.0m/s2	200.0m/s2	0.0m/s2	収録中	
9	振動	ベアリング3	ON	OFF	加速度	瞬時値	2s	10s	-50.0m/s2	200.0m/s2	0.0m/s2	収録中	
10	振動	パルスカウント1	ON	OFF	パルス波形	瞬時値	2s	10s		立上り	0	収録中	
11	振動	ON時間計測2	ON	OFF	パルス波形	瞬時値	2s	10s		立上り	0	収録中	
12	振動	イベント時刻記録3	ON	OFF	パルス波形	瞬時値	2s	10s		立上り	0	収録中	
13													
14													
15	1												
16	1												
17	1												
18	1												
19													
20													T
	4	1			1	I I							
												· ·	
												閉じる	

12-5. 警報表示動作

1) 警報発生時の表示

監視中の信号タグに警報が発生し監視PCに警報が通報されると、警報音(ブザー音)を発生すると共に警報発生メッ セージ表示(ポップアップ表示)を行います。この警報内容(ユニット名、信号タグ名、警報値、発生時刻)は、警報履歴 ファイルに記録されます。(警報履歴ファイルの参照は、メニューの[表示]→[警報履歴表示]で確認できます。)



2) 警報解除

①警報発生メッセージ表示と警報音の停止

警報発生メッセージ表示(ポップアップ表示)のOK をクリックすると、警報音(ブザー音)とポップアップ表示は消えます。しかし、監視状態表示は"警報"(赤色点灯)のままです。

ユニット名	信号如名	警報値
温度·電圧	温度1	28.1°C
\langle	ОК	>

②"警報"(赤色点灯)の解除

状態表示の"警報"(赤色点灯)を、正常の状態に戻すには「警報解除」をクリックし警報解除画面を開き該当ユニッ トの警報状態を解除する必要があります。

警報解除には、以下の2通りの方法があります。

選択解除	余
全解除	

駅解除 :メニューで反転表示されているユニットを解除します。 :警報が発生しているユニットを全て解除します。

										×
							警報解除		停止	
	RM No.	그드까名	状態 DO	1 :	2 3	4	5 5 7	89	10 11	12
wsv 警報解释除				A1 A A1 A	12 A3 12 A3	P1 P1	P2 P3 P2			
警報解除										
ユニット名	信号タグ名	警報値								
温度·電圧	温度1	28.1°C		1 1					1 1	
			-							
			T							
選択解除	全解除	キャンセル								

警報解除を行うと状態表示は、"解除中" となり、順次MT1200がリセットされ、警報履歴ファイルにも解除情報が記 録されます。解除が終了すると、状態表示は、"解除中"から"監視中"になります。 この間、警報を発生していない他の箇所については監視を続行しています。

【注意】警報履歴ファイルには、この解除動作についても記録しています。 また、警報レベルなど警報設定を変更した場合も警報が解除されます。但し、この場合は警報履歴には記録されません。

12-6. 監視終了

「停止」をクリックすると、監視終了確認画面が表示されます。 OK をクリックすると順次MT1200の監視状態を 停止して行き、監視終了時にバックアップファルがクローズされますます。

_									×	1
				($\boldsymbol{<}$)	停」	F		5
RM	No. ユニット名 【状態】DO 1 2 3 4	5	6	7	8	9	10	11	12	l
IT_	wsv監視確認	P2 P2	P3 P3							L
		H								l
	監視を終了します。									
	OK キャンセル									

【参考】次に監視開始するまでは、データベースに格納されたデータを各表示機能で確認することができますが、次回の 監視を開始するとデータベースは初期化されます。その後のデータ確認は、バックアップファイルビューアを使用 して下さい。詳細は、「16. バックアップファイルビューア」をご覧下さい。

12-7. プログラム終了

1) [ファイル] → [終了]をクリックします。

₩\$₽ <mark></mark> ワイヤレス センシング ビューア								
ファイル 機器登録	設定 表示	システム	ヘルジ					
エクスポート ▶ 終了	:57:33							
	-							

2)終了確認画面が表示されるので OK をクリックします。
 終了しても登録したMT1200の電話番号は保持されます。
 また、各ユニットの設定情報はユニット側で保持しており、ユニットスキャン時に読み込まれます。

₩SU終了確認		×
	システムを終了します。	
[OK ++>セル	

13. 定時報告書

指定された期日に、監視状態の全MT1200の監視データから報告書(日報、週報、月報)を作成し印刷します。 報告書は Microsoft Excel 用ファイル(XLSファイル)として作成し自動印刷またはファイル保存が指定できます。

<mark>wsv</mark> 定時報台	告書設定画面		×
定時報	告書設定		
। इ.य. र	∃報 I▼ ED刷 理報 I▼ ファイル 月報	日付 曜日 分1 月曜日 マ (分)9	時刻 :
出力)先ファイルパス ¥wsv¥REPORT		
定時	報告書出力照	特にはEXCELを使用し	ないで下さい
		ОК	キャンセル

【注意】報告書を印刷するにはMicrosoft Excel が別途必要になります。

13-1. 定時報告書の設定

1)時報告書の書式指定

定時報告書の書式として日報、週報、月報から選択します。重複指定が可能です。

日報	出力日の前日の0時から23時の1時間毎のデータをデータ形式の指定に合わせ集計して指定時刻に
	出力します。
週報	"曜日"で指定した一週間前の同曜日の0時から指定曜日の前日の23時までの6時間毎のデータをデ
	一タ形式の指定に合わせ集計して指定曜日の指定時刻に出力します。
月報	"日付"で指定した日の一ヵ月前の同日から前日までの1日毎のデータをデータ形式の指定に合わせ集
	計して指定日の指定時刻に出力します。

【注意】ユニットの選択はできません。登録されたユニットで「待機中」以外のすべてのユニットの報告書が作成されます。

2) 出力方法の指定

・出力方法を"印刷"、"ファイル"から選択します。ファイルを指定した場合は出力先フォルダに出力されます。

- "印刷"、"ファイル"重複指定が可能です。
- ・日付、曜日、時刻を設定することにより、出力日、時刻を変更できます。
- 3)出力フォーム

1ページ目に"表形式のデータ及び警報履歴用シート"、2ページ目に"トレンド波形用シート"として出力します。



14. CSVファイルのエクスポート

14-1. トレンドCSVファイルのエクスポート

データベースから現在、監視中の監視データを、CSV形式で出力することが可能です。

1) トレンドCSVファイル出力の設定

[ファイル]→[エクスポート]→[トレンドデータCSV]を選択するとユニット選択、時間指定の画面が表示されます。

wsvワイヤレス センシング ビューア					
ファイル機器登録	設定 表示 システム				
エクスポート 🕨	トレント・データCSV				
終了	設定一覧CSV				

ユニット名とエクスポートする時間を設定し、 OK をクリックして下さい。

■SV エクスポート ユニット名を指定します。	
開始 () 2002 年 () 6 月 () 9 日 () 2 時 () 5 分 終7 () 2002 年 () 7 月 () 2 日 () 6 時 () 55 分	開始と終了の日時を指定します。
ОК 4 еуен	

保存先ファイルパス、ファイル名を設定し、OK をクリックすることにより トレンドCSVファイルを出力します。

₩\$Vファイル指定		×
保存先ファイルパス		
ものである。 ないのでは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのででは、 ないのでででは、 ないのでででは、 ないのでででです。 ないのでででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのででです。 ないのでででです。 ないのでででです。 ないのででででです。 ないのでででです。 ないのでででです。 ないのでででででででです。 ないのでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	Þ	
OKキャンセル		

2) 出力イメージ

ヘッダ情報として信号タグ名、入力モード、データ形式、単位を付加します。(以下は、Microsoft Excel でファイルを開いた時のイメージです。)

	信号タグ名	信号1	信号2	信号3	信号4	信号5	信号6	リレー出力
	入力モード	熱電対	接点	電圧	パルスカウント	ON時間計測	イベント時刻記録	
	データ形式	瞬時値	瞬時値	瞬時値	積算値	積算値		
年/月/日	時:分:秒	°C		V		s		
2002/7/4	17:20:02	26	0	-0.003	200	5	0	0
2002/7/4	17:20:07	25.8	0	-0.002	400	10	0	0
2002/7/4	17:20:12	25.9	0	-0.002	600	15	0	0
2002/7/4	17:20:17	25.9	0	-0.002	800	20	0	0
2002/7/4	17:20:22	25.8	0	-0.002	1000	25	1	0
2002/7/4	17:20:27	25.9	0	-0.002	1200	30	1	0
2002/7/4	17:20:32	25.9	0	-0.002	1400	35	1	0
2002/7/4	17:20:37	26	0	-0.002	1600	40	1	0
2002/7/4	17:20:42	26	0	-0.002	1800	45	1	0
14-2. 設定一覧CSVファイルのエクスポート

データベースから現在の設定条件をCSV形式で出力することが可能です。

1) 設定一覧CSVファイル出力の設定

[ファイル]→[エクスポート]→[設定一覧CSV] を選択すると出力ファイル名を入力する画面が表示されます。

₩\$₽ワイヤレス センシング ビューア					
ファイル 機器登録	設定 表示 システム				
エクスポート 🕨	トレントデータCSV				
終了	設定→覧CSV				

保存先ファイルパス、ファイル名を設定し、OK をクリックするとトレンド設定条件をCSVファイルに出力します。

₩\$₩ファイル指定	ļ	×
出力先ファイルパス RC¥WSV¥OUTPUT¥200208152245設定一覧csv	e l	
	_	
OK ++>tzik		

出力が終了すると以下の表示がされます。

wsv設定一覧エクスポート	×
エクスポートが完了しました。	
OK	

2) 出力イメージ

次のようなフォーマットで出力します。(以下は、Microsoft Excel でファイルを開いた時のイメージです。)

No.	電話番号	ユニット名称	収録	待機	信号タグ名	入力	警報	入力モード	データ形式	サンプル間隔	収録間隔	積算リセット間隔	下限値	上限值
1	#/93	温度·電圧	ON	OFF	温度1	ON	ON	熱電対(K)	瞬時値	1s	5s		0.0°C	30.0°C
2	#/93	温度·電圧	ON	OFF	接点2	ON	ON	無電圧接点	瞬時値	1s	5s		立下り	
3	#/93	温度·電圧	ON	OFF	電圧3	ON	ON	電圧	瞬時値	1s	5s		-20.000V	20.000V
4	#/93	温度·電圧	ON	OFF	パルスカウント1	ON	ON	パルスカウント	積算値	1s	5s	10min	-1	32767
5	#/93	温度·電圧	ON	OFF	ON時間計測2	ON	ON	ON時間計測	瞬時値	1s	5s		-1	32767
6	#/93	温度·電圧	ON	OFF	イベント時刻記録3	ON	ON	ベント時刻記録	瞬時値	1s	5s			立上り
7	#/93	振動	ON	OFF	振動1	ON	ON	加速度	瞬時値	2s	60s		-50.0m/s2	200.0m/s2
8	#/93	振動	ON	OFF	速度2	ON	ON	速度	瞬時値	2s	60s		-1.0mm/s	300.0mm/s
9	#/93	振動	ON	OFF	ベアリング3	ON	ON	ベアリンク	瞬時値	2s	60s		-1.0m/s2	200.0m/s2
10	#/93	振動	ON	OFF	パルスカウント1	ON	ON	パルスカウント	瞬時値	2s	60s		-1	32767
11	#/93	振動	ON	OFF	ON時間計測2	ON	ON	ON時間計測	瞬時値	2s	60s		-1	32767
12	#/93	振動	ON	OFF	イベント時刻記録3	ON	ON	ベント時刻記録	瞬時値	2s	60s			立上り

14-3. リアルCSV出力のエクスポート

ワイヤレスセンジングビューアでは、各ユニットから吸い上げられたデータを他のシステムで使用可能にする為、常に CSV形式のファイルで出力することが可能です。

ファイルは、各ユニットの表示更新時(=データ読みだし時)毎に出力されるヘッダなしのCSVファイルです。下記のファ イルイメージを参照して下さい。

1) リアルCSV出力の設定

ワイヤレスセンシングビューアを起動する前に、INIファイル変更ユーティリティで設定しておく必要があります。

2) ファイル名

リアルCSVファイルのファイル名は、「先頭データのタイムスタンプ(年月日時分秒)+ユニット名. CSV」となります。

3) 出力イメージ

次のようなフォーマットで出力します。(以下は、Microsoft Excel でファイルを開いた時のイメージです。) データの順序は、トレンドデータCSVファイルと同様です。

年/月/日、時:分:秒、各信号タグ(下表は温度・電圧ユニットのため、左からアナログ入力1, 2, 3, パルス入力1, 2, 3、 リレー出力)の順に収録間隔毎のデータを時系列で出力します。

2002/8/16	16:18:14	25.4	0	-0.003	0	0	0	0
2002/8/16	16:18:19	25.6	0	-0.003	0	0	0	0
2002/8/16	16:18:24	25.6	0	-0.003	0	0	0	0
2002/8/16	16:18:29	25.6	0	-0.002	0	0	0	0
2002/8/16	16:18:34	25.4	0	-0.002	0	0	0	0
2002/8/16	16:18:39	25.4	0	-0.003	0	0	0	0
2002/8/16	16:18:44	25.7	0	-0.002	0	0	0	0
2002/8/16	16:18:49	25.7	0	-0.003	0	0	0	0
2002/8/16	16:18:54	25.7	0	-0.001	0	0	0	0
2002/8/16	16:18:59	25.7	0	-0.003	0	0	0	0
2002/8/16	16:19:04	25.7	0	-0.003	0	0	0	0
2002/8/16	16:19:09	25.7	0	-0.002	0	0	0	0
2002/8/16	16:19:14	25.5	0	-0.002	0	0	0	0
2002/8/16	16:19:19	25.4	0	-0.003	0	0	0	0
2002/8/16	16:19:24	25.6	0	-0.001	0	0	0	0
2002/8/16	16:19:29	25.7	0	-0.001	0	0	0	0

15. データベース

15-1. データベースについて

監視データは、リング状データベースを構築し管理しています。データを保持できる最大期間は、ユニット数、収録間 隔により異なり、最大保持期間を過ぎると、古いデータを削除(1週間単位)し、新しいデータを上書きします。この保持期 間内で有れば過去のデータをトレンド表示することが可能です。

また、同時にバックアップファイルも作成しています。このファイルはユーティリティのバックアップファイルビューアで 見ることが可能です。「16. バックアップファイルビューア」を参照して下さい。

15-2. データベースのサイズ

・データベースサイズ 2Gバイト

【参考】 ユニット100台、収録間隔30秒で監視した場合、約72日分の監視データを記録可能。

15-3. バックアップファイル

監視開始から停止までの監視単位毎にバックアップファイルを作成します。 データベースの最大保持期間を越える長期に渡る監視を行う場合でも、バックアップファイルは作成続けます。

・バックアップファイルの出力先フォルダの指定に関しては、「4-3. 初期設定 4) バックアップファイル出力先 の設定」をご覧下さい。

・不要となったバックアップファイルの削除に関しては、「16-5. バックアップファイルの削除」をご覧下さい。



16. バックアップファイルビューア

バックアップファイルビューアは、過去に監視を行った際に自動作成したバックアップファイルのデータを表示するソフト ウェアです。トレンド表示(過去トレンド、過去+比較トレンド)、詳細一覧表示、警報履歴表示、イベント履歴表示、CSVファ イル出力、バックアップファイルの削除が行えます。

16-1. プログラムの起動

デスクトップアイコンよりバックアップファイルビューアを起動します。 起動時に、バックアップファイルを検索し、下記のデータファイル選択画面を表示します。



8FV/バックアップファイルビューア Ver1R0.1 🔀	Sama and a second s
アイル 設定 BF Viewer	バックアップファイルビューアの デスクトップアイコン
HO 話視開始日時 1 2002/07/01 2010258 2 6902/07/02 13:1656 3 2002/07/03 17:5612 5 2002/07/03 19:4605 6 2002/07/03 12:008 7 2002/07/04 21:57:32 9 2002/07/05 15:37:47 10 2002/07/05 22:31:32 If U\$R Viewer 終了	> バックアップされたファイルは、監視開始時刻で表されます。





16-2. バックファイルビューアのトレンド表示

操作は、「12-3.トレンド表示」の過去トレンド、過去+比較トレンドと同様です。

16-3. 詳細一覧表示、警報履歴表示、イベント履歴表示

バックアップされたファイルの詳細設定、、警報履歴、イベント履歴を表示します。



詳細は、「11-4. 警報履歴」、「12-2. 監視表示」の3)詳細一覧表示 をご覧下さい。

【注意】 警報履歴、イベント履歴は監視単位毎のバックアップファイルには、最大最新の1000件が 保存されます。

16-4. バックアップファイルビューアからのCSV出力

バックアップファイルのデータを、CSV形式で出力することが可能です。



詳細は、「14-1.トレンドCSVファイルのエクスポート」を参照して下さい。

【注意】 バックアップファイルビューアからCSV出力できるデータは、画面 1. トレンド表示画面に示 す①の時間(最新時刻データ)からさかのぼり3600データとなります。 尚、この3600データとは、収録間隔時間に対しての3600データとなりますので、1回で出力 されるデータは、下記に示す関係式が成立します。

```
収録間隔 × 3600 = データ出力時間(CSV出力)
```

《例》

```
画面1.トレンド表示画面の例では、現在の最新時刻データは、②に示す時刻、
2002年7月2日10時25分31秒です。このときの収録間隔が10sだとした場合、CSV出力は、
1回でどのくらいの時間分のデータを出力できるのか。
上記の関係式により、10(s) × 3600(データ) = 36000(秒分のデータ)
= 36000÷60(秒)÷60(分)
= 10(時間分のデータ)
になります。
よって、現在の最新時刻から10時間前までのデータが出力されるのです。
もし、次のデータが欲しい場合は、②の時刻設定を2002年7月2日0時25分31秒にすれば
そこからさかのぼった10時間分のデータを出力することが出来ます。
表示時間を選択の最大値にすると、1 画面で3600データ分が表示されます。(但し、データ間は、
間引きされています。)
```

16-5. バックアップファイルの削除

ワイヤレスセンシングモニターでは、自動的にバックアップファイルを作成する為に監視の開始・停止を頻繁に繰り返すと不要なファイルが無数に作成されます。本機能により不要なファイルは定期的に削除して下さい。

不要なファイルを指定し、削除をクリックするとファイル削除の為の確認画面が表示されます。



確認画面の OK をクリックするとファイルを削除します。

<mark>BFV</mark>	×
2002/07/01 20:02:50 よろしいですか?	3 を削除します。
OK	キャンセル

16-6. バックアップファイル参照フォルダ、CSVエクスポート出力フォルダの指定

バックアップファイルの参照先を変更する場合とCSVエクスポート出力フォルダを変更する場合は、以下の手順に 従い行って下さい。

BFU/バックアップファイルビューア Ver1R0.1
771 設定
DF viewer
No 監視開始日時
17
19
20
22 23
24
26
削除 Viewer 終了

[設定]をクリックすると以下の設定画面が表示されます。

「バックアップファイルの参照先」、「CSVエクスポート出力フォルダ」を設定しOK」をクリックして下さい。

BFV設定画面	×
CSVIウスポート出力フォルダ 旨C¥WSV¥CSV	B
バックアップファイル参照フォルダ ��C:¥Wsv¥OUTPUT	6
設定	キャンセル

17. その他の機能

17-1. 機器初期化

MT1200を工場出荷時の状態に初期化します。

2連ユニットは2ユニットとも同時に初期化します。1ユニットのみの初期化はできません。

<mark>wsV</mark> 将	畿器初期化		×
		機器初期化設定	
	◎ 全고그까		
	〇) ユニット毎	初期化するユニット名 温度・電圧,振動 ▼	
		実行 キャンセル	

17-2. リトライ回数の設定

電波障害等により通信が行えないユニットが有る場合、ここで設定した回数分だけユニットスキャンを繰り返します。 設定可能回数 1~9回 (初期値は3回)

ユニットスキャン・リトライ回数	
OK ++>>セル	

【参考】 リダイヤル、通信エラー時の再接続は、3回固定です。

17-3. 表示更新時間表示の確認

「12-1. 監視開始」で、監視開始時間の指定の項目にある表示更新時間の設定値を監視状態でも確認する為に、 メニューの[表示] → [表示更新時間表示]を選択すると、下記の画面が表示され表示更新時間 を確認することが出来ます。

<mark>₩SV</mark> ∄	表示更新時間		×
	表示更新時間(分) (通信間隔)	5	
	閉じる		

17-4. Ver. 情報の確認

本ソフトウェア、MT12-701(ワイヤレス・センシング・ビューア)のバージョン情報を確認することが出来ます。 メニューの[**ヘルプ**]を選択する。

<mark>wsv</mark> ^	リレプ		×
	Ver.情報	Ver.3.0F	
		閉じる	

18. メニュー一覧



19. アンインストール

19-1. ワイヤレスセンシングビューアのアンインストール

1)ワイヤレスセンシングビューアのインストールCDをPCに挿入すると、下記に示すWSV(ワイヤレス・センシング・ ビューア)インストール画面が表示されます。「WSV&RunTimeEngineインストール」のボタンをクリックします。

インストールキーの入力		×	
WS	W(ワイヤレス・センシング・ビューア)インストール		
	WSV & RunTime Engine インストール		
	VISA2. Gインストール		WSV&RunTime Engine インストール のボタンをクリックする。
	MSDE & MSDE SP3インストール		
	データベースの作成		
	インストール終了		

2) つぎに、自動的にインストールウィザードが起動します。 "削除"のラジオボタンをクリックし、 次へ をクリック して下さい。 アンインストールが開始されます。

InstallShield ウィザート* 🔀
WSV セットアップ メンテナンス フログラムへようこそ。このフログラムを使って、現在のインストールを変更することがで きます。次のオフションを夘ックしてください。
○ 変更(<u>M</u>)
道加する新しい7泊ゲラムコンホペーネントを選択するか、あるい14前1除するインストール済みの コンホペーネントを選択してください。
○ 修正但) 「「「」」 前回のセットアップでインストールしたすべてのプロゲラム コンポーネントを再インストールします。
で 副派記 すべてのインストールされているコンホーネントを削除します。
(戻る(日) 次へ(11)) キャンセル

3)確認画面が表示されますので OK をクリックして下さい。

7ァイル削除の確認
選択したアフリケーション、およびすべてのコンホペーネントを完全に削除しますか?
OK キャンセル

4)「共有ファイルの検出」画面が表示されますので **はい** をクリックして下さい。 共有ファイルの検出は使用状況により数回表示されることがあります。

共有ファイルの検出
ファイル C¥WINNT¥System32¥DialUp.ocx は、他のアブリケーションで必要としていません。 このファイルを削除できますが、他のアブリケーションが起動しなくなる可能性があります。 ファイルを削除する場合は、ロよいを選択してください。
□ 次回からこのメッセージを表示しない。
はい(<u>)</u> いいえ(<u>N</u>) キャンセル

5)ワイヤレスセンシングビューアのアンインストール完了画面が表示されます。 **完了**をクリックしアンインストール完了ます。

InstallShield ウィザート	
	メンテナンスの完て InstallShield ウィザート1は、WSV上のメウテナンスを完了しました。
	< 戻る/ 完7 キャンセル

6)続けて、LabViewランタイムエンジンのアンインストールが開始されます。

19-2. LabVIEWランタイムエンジンのアンインストール

1) 続けて、LabViewランタイムエンジンのアンインストールを行います。 **"削除"**のラジオボタンをクリックし、 次へ をクリックして下さい。 アンインストールが開始されます。

Pational Instruments アフリケーションメンテナンス 実行するメンテナンスを	: LabVIEW Run-Time Engine 6.0.2 Setup NATIONAL INSTR 送選択してください。	
	- イノストールされたアフリケーション項目を変更します。個々の機能 成するための選択する項目ゲイアログを表示します。	<u>を構</u>
C 修復(R) 是们	見つからないりァイル、壊れたファイル、レジスドリキーおよびジュー技 再クストールします。レジスドリはテフォルド面に設定されるかもし せん。	い か ち わま
	ニのコンピューカからNational Instruments LabVIEW Run-Time Engine 6.0.2をアンインストールします。	3
		キャンセル

2) 確認画面が表示されますので 次へを クリックして下さい。 アンインストールが開始されます。



LabViewランタイムエンジンのアンインストール完了画面が表示されます。
 終了をクリックしアンインストールを完了します。



4) 最後にWSV(ワイヤレス・センシング・ビューア)インストール画面の **インストール終了** ボタンをクリックし、 終了させ、PC本体よりCDを取り出して完了してください。

<i>イ</i> ンスト−ルキーの入力	WSV(ワイヤレス・センシング・ビューア)インストール	X			
	WSV & RunTime Engine インストール				
	VISA2, 6インストール				
	MSDE & MSDE SP3インストール				
	データベースの作成		インストー, のボタンを	ル終了 クリックする。	
	インストール終了	-]

1) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」より「アプリケーションの追加と削除」を起動します。 「NI-VISA 2.6.0 Runtime」を選択し、「変更」をクリックして下さい。

🗟 アプリケーション	の追加と削除		
1 🖉	現在インストールされているプログラム:	並べ替えの): 名前 📃
プログラムの変	A Microsoft Office 2000 SR-1 Disc 2	サイズ	391 MB 📥
史(月1977	A Microsoft Office 2000 SR-1 Professional	サイズ	398 MB
	MSDE	サイズ	20.4 MB
	🛐 NI LabVIEW 6.0 Japanese	サイズ	322 MB
加加	🙀 NI-VISA 2.6.0 Runtime	サイズ	<u>3.15 MB</u>
	サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください。	使用頻度	低
्र	このプログラムを変更したり、コンピュータから削除するに は、[変更] または [削除] をクリックしてください。	変更(<u>C</u>)	肖/序余(<u>R</u>)
Windows コンボ ーネントの追加	B, StarOffice フォーラム	サイズ	26.1 MB
と削除	By StarOffice/ステーション	サイズ	16.3 MB
	🕞 StarOffice/ビジネスサプライス、スクジュール管理	サイズ	26.1 MB
	🗗 StarOffice/ビジネスサプライス 施設予約	サイズ	1.63 MB
	🖪 StarOffice/ビジネスサプライス 電子電話帳	サイズ	26.1 MB 🚽
	🕒 StarOffice/在席表示板	サイズ	26.1 MB
	UNLHA32.DLL Windows 2000. Hottin. (Pro-SP2). [See a260222. for	サイズ	820 KB
			閉じる(0)

2) 「NI-VISA 2.6.0 Runtime」のセットアップ画面が表示されます。 Remove All をクリックすると、 Next が有効になりますのでクリックして下さい。 アンインストールが開始されます。

Add/Remove Application Select the operation to perform from the buttons below.
dd/Remove
<u>S</u> elect reinstall mode
< Back Next> Cancel

3) Next をクリックします。



4) 以下のような実行画面が表示されます。



5) Finish をクリックしてアンインストールを終了します。



6) 必ず、再起動して下さい。

19-4. MSDEのアンインストール

1) MSDEサービスの停止

画面右下〇枠の位置で、マウスを右クリックし、「MSSQLServer - 停止」を選択します。

	SG)L Server サードス マネージャを聞く()	M)		
	¥¥.	INSTALLTEST での現在のサービス(⊻)	•		
	MS	iSQLServer - 停止(Q)			
	MS MS	SQLServer - 一時停止(P) SQLServer - 開始(<u>S</u>)			
	終 オ	7⊗ Þ∋>№…			
マクマネージャ	バ *1無悪	-ジョン情報(<u>A</u>)		b	17:16

2) 確認画面が表示されますので、 はいを クリックして下さい。

SQL Server	• サービス マネージャ
?	停止しますか?(サービス MSSQLServer、サーバー ¥¥INSTALLTEST) (まいい?) いいえ(N)

MSDEサービスマネージャを終了する。
 〇枠の位置で、マウスを右クリックし、「終了」を選択します。



4) アプリケーションの追加と削除

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」より「アプリケーションの追加と削除」を起動します。 「MESDE」を選択し、 変更/削除 をクリックして下さい。

🖬 アプリケーション(の追加と肖明条		_ 🗆 🗵
	現在インストールされているプログラム:	並べ替え(<u>S</u>):	名前 💽
プログラムの変	🍠 Microsoft Office 2000 Premium	サイズ	233 MB 📥
更と前り味 プログラムのj道 加 Windows コンポ ーネントのj道加 と前り除	 ✓ MSDE このプログラムを変更したり、コンピュータから削除するには、「変更/削除]をクリックしてください。 ILabVIEW Run-Time Engine 6.0.2 WI-VISA 2.6.0 Runtime WSV 	変更) サイズ サイズ サイズ	イ削除(©) 13.1 MB 3.15 MB 816 KB
			閉じる(<u>O</u>)

5) 確認画面が表示されますので、 はい をクリックして下さい。



6) 共有ファイル削除

「共有ファイルを削除しますか?」という確認画面が表示されますので、 「すべてはい」をクリックして下さい。

共有ファイルを削除	にますか? 🗾 🔀
汎乱上で、次 他のプログ乱れ 作しなくなる	の共有ファイルはどのプログラムでも使用されていません。 ハまだこのファイルを使用する場合、削除するとプログラムが動 恐れがあります。共有ファイルを削除してもよいですか?
このファイルを残 でない場合は	しておいても汎乱を壊すことはありません。あまり確実 、この共有コンホ⁰ーネントを消去しないようにして下さい。
7ァ仙名:	repiprov.dii
場所:	C:¥Program Files¥Common Files¥Microsoft Shared¥
	すべてはい(<u>A</u>) いいえ(<u>N</u>) すべていいえ(<u>O</u>)

7) 共有ファイル削除

再度「共有ファイルを削除しますか?」という確認画面が表示されますので、 はい をクリックして下さい。



8) 削除実行画面

コンビュータからフログラムを削除	
	unInstallShield は、コンピュータからフ ^o ログラム 'MSDE' を削除します。 次の各コンホ ^o ーネントが削除される間、しばらくお待ち ください ・ 共有フ ^o ログラム ファル ・ 標準フ ^o ログラム ファル ・ フォレダー項目 ・ フ ^o ログラム フォルダー ・ フ ^o ログラム ティルクトリ ・ フ ^o ログラム ディルクトリ ・ フ ^o ログラム ディルクトリ ・ フ ^o ログラム ディルクトリ ・ フ ^o ログラム ディルクトリ
	目を個々に削除する必要があります。
	I¥細 OK

9) 手動操作によるデータベースファイルの削除

削除後、「詳細」をクリックすると下記のメッセージが表示されますが、「C:¥MSSQL7¥Data」フォルダ以外のフォル ダ・ファイルは削除されています。

「C:¥MSSQL7¥Data」フォルダにはデータベースファイル「WSV_DB.mdf」と「WSV_DB.ldf」が格納されていますので、手動操作(エクスプローラ)で「C:¥MSSQL7」フォルダごと削除して下さい。



20. 仕様

20-1. 動作環境

対応OS	Windows2000(+サービスパック2以上推奨)
CPU速度	500MHz(推奨1GHz)以上
メモリ容量	128MB(推奨256MB)以上
ハードディスク容量	20GB(推奨40GB)以上 ^{※2}
画面	1024×768以上(表示は1024×768固定)
データ送受信用インタフェース	RS-232Cポート 1ポートまたは2ポート*1
ディスプレイ解像度	1024×768(固定)
PC側PHS受信装置	PAU—502RS(NEC 製)
その他	定時報告書出力用にMicrosoft Excel2000または2002が別途必要

*1 機器設定・データ収集用と警報待受用にPHS回線を2回線使用しますと、更に高い信頼性を確保できます。

*2 本ソフトウェアをインストールする際にディスク容量は、最低でも5GB以上必要です。

20-2. ワイヤレスセンシングモニタのタイプ

以下のタイプのワイヤレスセンシングモニタが使用可能です。

タイプ	形式
温度・電圧タイプ	MT12-101
回転体振動タイプ	MT12-102
接点タイプ	MT12-104
パルスタイプ	MT12-105

20-3. ワイヤレスセンシングモニタMT1200の登録

20-3-1. 監視可能な信号タグ数

最大アナログ300信号タグ、パルス300信号タグまで監視可能

(接点ユニットの場合、最大接点1000信号タグ、パルス200信号タグまで)

基本ユニット時 最大100台

基本ユニット+増設ユニット時 最大 50台

20-3-2. 機器登録

1)電話番号登録

・MT1200電話番号(自営、公衆)の登録

・通常通信用及び警報受信用電話番号登録

2)ユニット名称登録

・ユニット名称(全角8文字)

・信号タグ名称(全角8文字)

3)グループ登録

・グループ名称登録、グループメンバー(信号タグ)指定、5グループ(各6信号タグ)

4) ユニットスキャン機能

・電話番号登録済みMT1200の構成、設定内容等の自動読み出し

・警報送信先設定(PCの電話番号をMT1200へ設定)

・時刻の自動設定(PCの時刻をMT1200へ設定)

20-4. 入力設定

- 20-4-1. 温度・電圧ユニットの設定
 - 1)「待機させる」指定により該当ユニットを監視対象から除くことが可能
 - 2)入力ON/OFFの設定により信号タグ単位で監視対象から除くことが可能
 - 3)アナログ入力モード設定(3入力)
 - ・熱電対、サーミスタ温度計、DC電圧、電流(4~20mA)、無電圧接点より選択
 - ・バーンアウトチェックON/OFF、内部温度補償ON/OFF(熱電対時)
 - ・熱電対の選択(K,E,J,T)
 - 4)パルス入力モード設定(3入力)
 - ・パルスカウント、ON時間計測、イベント時刻記録、パルス波形より選択
 - ・デジタルフィルタの指定(OFF, 10ms, 30msより選択)
 - ・入力極性指定(立ち上がり、立ち下がり、両極性より指定)
 - 5)データ形式設定
 - ・熱電対, サーミスタ温度計, DC電圧, 電流(4~20mA)時は、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、最小値または収録時の瞬時値から選択し収録
 - ・無電圧接点時は収録時の瞬時値を収録
 - ・パルスカウント、ON時間計測時は、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、最小値または収録時の瞬時 値、積算値を選択し収録
 - ・イベント時刻記録、パルス波形時は収録時の瞬時値を収録
 - 6)ユーザスケール設定
 - ・アナログ入力モード設定が熱電対、サーミスタ温度計、DC電圧、電流(4~20mA)の時、ユーザスケール設定可 ・パルス入力モード設定がパルス・カウント、ON時間計測の時、ユーザスケール設定可
- 20-4-2. 回転体振動ユニットの設定
 - 1) 待機させる」指定により該当ユニットを監視対象から除くことが可能
 - 2) 入力ON/OFFの設定により信号タグ単位で監視対象から除くことが可能
 - アナログ入力モード設定(3入力)
 振動シビアリティ測定(加速度,速度,変位)、ベアリング(H関数準拠*²)より選択
 - 4) パルス入力モード設定(3入力)
 ・パルスカウント、ON時間計測、イベント時刻記録、パルス波形より選択
 ・デジタルフィルタの指定(OFF, 10ms, 30msより選択)
 ・入力極性指定(立ち上がり、立ち下がり、両極性より指定)
 - 5) データ形式設定
 - ・振動シビアリティ測定(加速度,速度,変位),ベアリング時は収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、 最小値または収録時の瞬時値を選択し収録
 - ・パルスカウント、ON時間計測時は、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、最小値または収録時の 瞬時値、積算値を選択し収録
 - ・イベント時刻記録、パルス波形時は収録時の瞬時値を収録
 - 6)センサ感度補正
 - ・0.9~11mV/m/s²のセンサ感度に対応
 - 7) ユーザスケール設定
 ・アナログ入力モード設定が加速度,速度,変位、ベアリングの時、ユーザスケール設定可
 ・パルス入力モード設定がパルスカウント、ON時間計測の時、ユーザスケール設定可
 - *2 H関数はIMV株式会社の定める測定条件に準拠しています。

- 20-4-3. 接点ユニットの設定
 - 1)「待機させる」指定により該当ユニットを監視対象から除くことが可能
 - 2)入力ON/OFFの設定により信号タグ単位で監視対象から除くことが可能
 - 3) 接点入力設定(10入力)
 - ·無電圧接点(固定)
 - 4)パルス入力モード設定(2入力)
 - ・パルスカウント、ON時間計測、イベント時刻記録、パルス波形より選択
 - ・デジタルフィルタの指定(OFF, 10ms, 30msより選択)
 - ・入力極性指定(立ち上がり、立ち下がり、両極性より指定)
 - 5)データ形式設定
 - ・無電圧接点は収録時の瞬時値を収録
 - ・パルスカウント、ON時間計測時は、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、
 - 最小値または収録時の瞬時値、積算値を選択し収録
 - ・イベント時刻記録、パルス波形時は収録時の瞬時値を収録
 - 6) ユーザスケール設定
 - ・パルス入力モード設定がパルス・カウント、ON時間計測の時、ユーザスケール設定可
- 20-4-4. パルスユニットの設定
 - 1)「待機させる」指定により該当ユニットを監視対象から除くことが可能
 - 2)入力ON/OFFの設定により信号タグ単位で監視対象から除くことが可能
 - 3) パルス入力モード設定(3信号タグ)
 - ・パルスカウント、ON時間計測、イベント時刻記録、パルス波形より選択
 - ・デジタルフィルタの指定(OFF, 10ms, 30msより選択)
 - ・入力極性指定(立ち上がり、立ち下がり、両極性より指定)
 - 4)データ形式設定
 - ・パルスカウント、ON時間計測時は、収録間隔内のサンプリング値の平均値、最大値、最小値または収録時の瞬時値、 積算値を選択し収録
 - ・イベント時刻記録、パルス波形時は収録時の瞬時値を収録
 - 5) ユーザスケール設定

・パルス入力モード設定がパルス・カウント、ON時間計測の時、ユーザスケール設定可

20-5. 収録条件の設定

- 20-5-1. 収録条件
 - 1)サンプル間隔
 - ・サンプル間隔に合わせて、警報の有無を判定
 - 1, 2, 5, 10, 20, 30s, 1, 2, 5, 10, 20, 30min, 1hより選択
 (回転体振動ユニットのサンプル間隔は2s~1h)
 - 2) 収録間隔
 - ・実際にデータを記録する周期
 - 1, 2, 5, 10, 15, 20, 30s, 1, 2, 5, 10, 15, 20, 30min, 1, 2, 3, 6, 12, 24hより選択 (回転体振動ユニットの収録設定は2s~24h)
 - 3)サンプル間隔と収録間隔の関係

サンプル間隔	収録間隔
1s	サンプル間隔設定~ 6h
2s	サンプル間隔設定~12h
5s~1h	サンプル間隔設定~24h

^{*}サンプル間隔<>

収録間隔

シナンプル間隔 * 32767(24h以下)

- 4)収録の禁止
 - ・「収録する」にチェックがない場合、データを収録せず監視のみを行なう

20-5-2. 積算リセット間隔

・パルスカウント、ON時間計測時、積算を選択した場合、積算のリセット間隔を選択可能 1, 2, 5, 10, 15, 20, 30min, 1, 2, 3, 6, 12h, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14, 15, 20, 21day, 1monthより選択 (1monthを指定した場合は、月毎の1ヶ月の日数を自動調整し月末日23時59分59秒でリセット)

20-5-3. 表示更新間隔

・登録ユニット数、各収録間隔、通信回線数により、最適な表示更新間隔が設定可能 ・表示更新間隔毎にMT1200と通信しデータを取得

ユニット数	サンプル間隔		収録	渌間隔			更新時間
	1s	1	s	~	6	h	
1 ~ 2	2s	2	s	~	12	h	1 min ~ 収録間隔×360
	5s ∼ 1h	5	s	~	24	h	
	1s	1	s	~	6	h	
3~5	2s	2	s	~	12	h	5 min ~ 収録間隔×360
	5s ∼ 1h	5	s	~	24	h	
	1s	2	s	~	6	h	
6 ~ 10	2s	2	s	~	12	h	10 min ~ 収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h	
	1s	5	s	~	6	h	
11 ~ 16	2s	5	s	~	12	h	15 min ~ 収録間隔×360
	5s∼1h	5	s	~	24	h	
	1s	5	s	~	6	h	
17 ~ 22	2s	5	s	~	12	h	20 min ~ 収録間隔×360
	5s∼1h	5	s	~	24	h	
	1s	5	s	~	6	h	
23 ~ 33	2s	5	s	~	12	h	30 min ~ 収録間隔×360
	5s∼1h	5	s	~	24	h	
	1s	10	s	~	6	h	
34 ~ 51	2s	10	s	~	12	h	45 min ~ 収録間隔×360
	5s	10	s	~	24	h	
	10s~1h	10	s	~	24	h	
	1s	10	s	~	6	h	
52 ~ 70	2s	10	s	~	12	h	60 min ~ 収録間隔×360
	5s	10	s	~	24	h	
	10s~1h	10	s	~	24	h	
	1s	15	s	~	6	h	
	2s	20	s	~	12	h	
71 ~ 100	5s	15	s	~	24	h	90 min ~ 収録間隔×360
	10s	20	s	~	24	h	
	15s~1h	15	s	~	24	h	

収録間隔と表示更新時間(1通信ポート時)

注)表示更新時間は24時間が最大となります。 表示更新時間は収録時間より小さくは設定できません。 最速の表示更新時間は、通信状態が良い状態での期待値です。

							1 MJ7		
ユニット数	サンプル間隔		収	渌間隔					更新時間
	1s	1	s	~	6	h			
1	2s	2	s	~	12	h	1 min	~	収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h			
	1s	1	s	~	6	h			
2	2s	2	s	~	12	h	2 min	~	収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h			
	1s	1	s	~	6	h			
3~4	2s	2	s	~	12	h	3 min	~	収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h			
	1s	1	s	~	6	h			
5 ~ 7	2s	2	s	~	12	h	5 min	~	収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h			
	1s	2	s	~	6	h			
8 ~ 14	2s	2	s	~	12	h	10 min	~	収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h			
	1s	5	s	~	6	h			
15 ~ 23	2s	10	s	~	12	h	15 min	~	収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h			
	1s	5	s	~	6	h			
24 ~ 30	2s	10	s	~	12	h	20 min	~	収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h			
	1s	5	s	~	6	h			
31 ~ 48	2s	10	s	~	12	h	30 min	~	収録間隔×360
	5s~1h	5	s	~	24	h			
	1s	10	s	~	6	h			
49 ~ 75	2s	10	s	~	12	h	45 min	~	収録間隔×360
	5s	10	s	~	24	h			
	10s~1h	10	s	~	24	h			
	1s	10	s	~	6	h			
76 ~ 100	2s	10	s	~	12	h	60 min	~	収録間隔×360
	5s	10	s	~	24	h			
	10s~1h	10	s	~	24	h			

収録間隔と表示更新時間(2通信ポート時)

注)表示更新時間は24時間が最大となります。 表示更新時間は収録時間より小さくは設定できません。 最速の表示更新時間は、通信状態が良い状態での期待値です。

20-6. 監視および警報

20-6-1. 監視信号タグ設定

- ・監視信号タグを設定
- ・警報用上下限値を設定
- ・警報用上下限値を越えてから「警報」とするまでの許容時間を設定
- ・許容時間の設定はサンプル数を入力(許容時間=サンプル間隔×サンプル数)

・サンプル数に設定可能な値は0~3600

20-6-2. アラーム出力の論理設定

監視対象の信号タグからの警報のAND設定により、警報を統合しアラーム発報可能 ・同ーユニット内の任意の信号タグにAND要因を設定

20-7. 表示

20-7-1. 監視表示

1)監視表示

・50ユニット一覧表示

詳細表示として2ユニットの数値またはバーグラフ表示

・100ユニット一覧表示

詳細表示として2ユニットの数値またはバーグラフ表示(ポップアップ画面)

2)状態表示

・ユニットの状態表示

待機中	ユニット内の全信号タグを監視対象からはずした状態、全信号タグOFFの状態
動作中	通信待ちで異常も発生していない状態
BATT	MT1200の電源電圧が低下した状態
通信中	通信中でパラメータ設定やデータ収録中の状態
通信E	通信がエラー終了した状態

・信号タグの状態表示

OFF	各信号タグ毎に入力がOFFの状態
収録中	データを取得し記録する状態、警報判定は行わない状態
監視中	収録と共に判定を行い異常と判断されれば警報を発報する状態
注意	警報値の90%の値を超えた状態
	"上限値-下限値"を100%とした場合の0~10%以下、90%~100%未満が注意
警報	警報を受けつけた状態
解除中	収録と共に警報の解除を行い、順次、[監視中]に移行する状態

20-7-2. トレンド表示

1)トレンド表示(最新データの表示)

・ユニットまたはグループ単位で表示更新時間毎に更新、表示

・信号タグ毎に非表示、波形のみ表示、波形とスケールの表示を選択

・表示範囲

時間軸表示範囲 10, 30min, 1, 2, 3, 6, 12h, 1, 2, 7, 14, 31, 45day

但し、表示データ数は最大3600データ

・カーソル読み取り

カーソルを移動し測定データの数値表示、時刻表示が可能(1秒単位で微調可能)

- ・表示スケールの変更(スケールの上限、下限の数値を変更)
- ・整列ボタンにより表示波形を均等表示(非可逆表示)

・積算表示時に瞬時値表示との切り替え表示が可能

- 2) 過去トレンド表示(過去データの表示)
 - ・年・月・日・時・分・秒を指定することにより過去のデータを検索
 - ・過去データの比較(重ね合わせ)表示
 - ・過去のトレンドデータを2件重ね合わせて表示
 - ・その他機能は1)トレンド表示と同様

20-7-3. 履歴表示

1) 警報履歴表示

・表示内容 :発生日時、ユニット名、信号タグ名、データ状態、警報値

・警報履歴の保存数 :最大100件(最大数を越えた場合は古いものから削除)

- 2) イベント履歴表示
 - ・表示内容 :ユニット名, 信号タグ名, イベント要因, 発生日時

・イベント履歴の保存数:最大100件(最大数を越えた場合は古いものから削除)

20-7-4. 詳細一覧表示

・ユニット名, 信号タグ名, 入力 ON/OFF, 警報 ON/OFF, 入力モード, データ形式, サンプル間隔, 収録間隔, 下限 値、上限値、最新データ、状態を各信号タグ毎に一覧表示

20-8. 警報メール

警報発生時に、最大3アドレスに警報メールを送信

- ·送信先設定 :送信先メールアドレス,送信メッセージ,警報時送信する/しないを3ヶ所まで設定可
- •送信内容 :ユニット名、信号タグ名、警報値、発生日時、送信メッセージ
- ・送信プロトコル : SMTP (送信元アドレス, SMTPサーバーアドレス, SMTPポート番号(初期値25)を設定)
 - POPbeforeSMTP (SMTP設定の他にPOPサーバーアドレス, POPポート番号(初期値110), アカウント名,パスワードを設定)
- ・ダイヤルアップ:PPP(ダイヤルアップ名,ユーザID,パスワード,アクセスポイント電話番号を設定) ダイヤルアップ時のリトライ回数を設定可能(初期値3)

20-9. 定期報告書の作成機能

指定された期日に、全ユニットの監視データから報告書(日報、週報、月報)を作成し自動印刷およびファイル保存 :日報,週報,月報 (重複選択可) ·報告書形式選択

- :時刻,曜日,日付 ·印刷日時設定

・出力先フォルダ指定

・出力フォーマット :Excel形式(XLSファイル)

(報告書を印刷するには Microsoft Excel が別途必要)

日報	出力日の前日の0時から23時の1時間毎のデータをデータ形式の指定に合わせ集計して指定時刻に
	出力
週報	"曜日"で指定した一週間前の同曜日の0時から指定曜日の前日の23時までの6時間毎のデータを
	データ形式の指定に合わせ集計して指定曜日の指定時刻に出力
月報	"日付"で指定した日の一ヵ月前の同日から前日までの1日毎のデータをデータ形式の指定に合わせ
	集計して指定日の指定時刻に出力

20-10. データファイルの出力 (エクスポート機能)

データ、設定情報をCSV形式で、ファイルへ出力します。

・トレンドデータCSV出力 :ユニット番号,保存先ファイルパス,開始終了年月日を指定

信号タグ名,入力モード,データ形式,単位を年月日,時分秒の時系列で一覧出力 :保存先ファイルパスを指定 ·設定一覧CSV出力 登録された全信号タグの電話番号、ユニット名称、収録 ON/OFF、 待機 ON/OFF、 信号タグ名,入力 ON/OFF, 警報 ON/OFF,入力モード,データ形式,サンプル間隔,

収録間隔,積算リセット間隔,警報下限値,上限値を一覧出力

20-11. データベースおよびデータバックアップ

・収録されたデータをデータベースにより管理

- ・最大データ保持期間は、ユニット数、収録間隔により決定
- 例)ユニット100台、収録間隔30秒で監視した場合、約72日分の監視データを記録
- ・監視開始から停止までの監視単位毎にバックアップファイルを作成
- 新規監視開始時にバックアップファイルを残しデータベースを初期化 注意)最大データ保持期間を過ぎると、古いデータを削除(1週間単位)し新しいデータを記録

20-12. その他

1)機器初期化

MT1200の設定を工場出荷時の状態に初期化

- 2)リトライ回数設定
 - ユニットスキャン時のリトライ回数を設定(初期値3回)

20-13. ユーティリティー

1)IFU(IniFileUtility)

- ・使用通信ポートの指定、モデムタイプの指定
- ・リアルCSV出力の ON/OFF、出力先フォルダの指定
- 各ユニットのデータ読出時にファイル作成、ファイル名は「先頭データのタイムスタンプ+ユニット名称. CSV」

(年月日時分秒)

- ・バックアップファイルの出力先フォルダの指定
- ・WSV(WirelessSenssingViewer)を起動する前に設定すること

2) BFV (BackupFileViewer)

- ・監視開始時間で選択した監視単位の過去の監視トレンド、警報履歴、イベント履歴、詳細一覧を表示 表示仕様は7-2 2)過去トレンドと同様
- ・警報履歴、イベント履歴は、最新の1000件まで記録。
- ・不要となったバックアップファイルを監視単位で削除可能
- ・表示検索時刻より以前の3600データをCSVファイル出力、出力先フォルダの指定
- ・バックアップファイルの参照フォルダの指定

20-14. 製品形態および付属品

CD-ROM	1枚
取扱説明書(95691-2207-0000)	1冊
RS-232Cクロスケーブル(9pin メス9pin メス)	1本

1)本書の内容の一部または全部を無断で転載することは堅くお断り致します。

2) 本書の内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。

ワイヤレス センシン	グ ビューア
MT 1 2 - 7 0 1	
取扱説明書	
(95691–2207–	0000)
2002年8月 衫	刀版 発行
2003年1月 2	2版 発行
2003年3月 3	3版 発行
NEC三栄株式会社	